

二 發電所、變電所、水路電線路等ニ故障ヲ生シ其ノ送電ノ停止二十四時間以上ニ互ルトキ又ハ送電ノ大部分ヲ停止セルトキ

三 前各號ノ外重大ナル事故ヲ生シタルトキ

自家用電氣工作物施設規則ニ依ル電氣工作物ノ事故ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス但シ前項第二號ノ場合ニハ前項但書ノ規定ヲ準用セス

第二條 水路ニ於ケル流量ノ減少ニ因リ發電力ヲ減シタル場合ニ於テハ其ノ減水期間内ニ於ケル發電日誌ノ寫ヲ作成シ毎月一回所轄遞信管理局長ヲ經由シテ遞信大臣ニ届出ツヘシ其ノ發電力ヲ著シク減シタル場合ニ於テハ遲滞ナク流量量其ノ他ノ關係事實ヲ詳具シ届出ツヘシ

(別記)

(電氣事故届出様式)

- (一) 事故ノ種類類
- (二) 發生ノ日時及天候
- (三) 事故ノ場所

- (四) 事故ノ狀況
- (五) 事故繼續時間
- (六) 事故發生ノ際ニ於ケル各部保安裝置ノ指示又ハ狀況
- (七) 事故ノ原因
- (八) 事故發生前ニ於ケル關係工作物ノ狀態
- (九) 應急ノ處置
- (十) 復舊ノ日時又ハ其ノ見込
- (十一) 損害ノ概算
- (十二) 損害ノ概算
- (十三) 備考

(期間内ニ取調ヲ了セサルトキハ結了次第届出ツヘキモノトス)

注意

一 (四)事故ノ狀況欄ニハ事故ノ程度及範圍、損害ノ有無、死傷者アルトキハ其ノ員數、公衆又ハ操業者ノ別、致死又ハ負傷ノ原因等ヲモ詳記シ且感電死傷者ニ對スル醫師ノ診斷書又ハ檢案書ノ寫ヲ添附

特別高壓電線路取締規則

- スヘシ
- 二 電線ノ切斷セル場合ニハ其ノ電線ノ種類、太サ、電線支持點間ノ距離及斷線ノ直接原因等ヲモ各相當欄ニ記載スヘシ
 - 三 電線ノ混觸又ハ他ノ工作物トノ接觸ヲ生シタルトキハ電線ノ種類、太サ、電線支持點間ノ距離及兩電線間又ハ電線ト工作物間ノ距離等ヲモ各相當欄ニ記載スヘシ
 - 四 説明上必要アル場合ニ於テハ圖面ヲ添附スヘシ
 - 五 (七)事故ノ原因ノ欄ニハ機械器具其ノ他材料ノ不良又ハ施設方法ノ不完全ナルニ因ルヤ否、操業者又ハ其ノ他ノ者ノ過失若ハ故意、天災其ノ他ノ不可抗力ニ因ルヤ否等ヲモ記載スヘシ

●電氣事業報告書様式

電氣事業法施行規則第六十四條ニ依ル電氣事業報告書様式左ノ如シ

第一表 (電氣供給事業ノ部) 架空電線路 (期末現在)

種別	電線路巨長	電線延長			種別	實數
		低壓	高壓	特別高壓		
送電線路	哩	計	本	本	計	本
配電線路	哩	計	本	本	計	本
計	哩	計	本	本	計	本
實數	哩	計	本	本	計	本
本期末現在	哩	計	本	本	計	本
前期末ニ比シ増減	哩	計	本	本	計	本

注意

一 哩以下ハ小數一位トス但シ四捨五入ノコト

二 同一ノ電線路ニ送電線及配電線併架ノ部分アル場合ニ於テ其ノ送電線又ハ配電線ヲ各別ニ計算セル互長及支持物ノ合計數ハ實際ノ數量ト異ルニヨリ實數欄ニハ送電線及配電線ヲ區別セサル實際ノ互長及支持物數ヲ計上スルコト

三 他人ノ支持物ニ自己ノ電線ヲ併架セル部分アルトキハ其ノ電線路ノ互長及支持物數ハ本表中ニ算入セス別ニ其ノ部分ニ就キ本表ニ準シ記載セル調表ヲ添附シ且支持物ノ所屬事業者名ヲ附記スルコト

第二表 地中電線路 (期末現在)

電 低 壓	種 別	送電線路		配電線路		計	實 數	
		哩	哩	哩	哩		本期末現在	前期末ニ比シ増減

長 合 計	延 特 別 高 壓	線 高 壓

注意

一 他人ノ暗渠、管、樋等ヲ共用シテ其ノ内ニ布設セル部分アルトキハ第一表注意第三項ニ準ス

二 前項ノ外第一表ニ同シ

第三表 種類別地中電線延長 (期末現在)

線電配	線電送	製造者名	種	類	心線數	心線ノ太サ	延	長

注意

「種類」ニハ鎧装、非鎧装ノ別及絶縁物ノ種類等ヲ記載スルコト

第四表 供給區域別架空配電線路 (期末現在)

合計	供給區域	電線路互長 <small>哩</small>	電線延長			柱上變壓器 數 <small>筒</small>	總容量 <small>キロワット</small>
			低壓 <small>哩</small>	高壓 <small>哩</small>	計 <small>哩</small>		

注意

一 供給區域ハ市町村毎ニ區別スルコト又供給區域外ニ涉ル配電線ハ便宜ノ區域内ニ算入スルコト

二 前項ノ外第一表ニ同シ

第五表 供給區域別地中配電線路 (期末現在)

合計	供給區域	電線路互長 <small>哩</small>	電線延長			配電函數 <small>筒</small>	變壓器 數 <small>筒</small>	總容量 <small>キロワット</small>
			低壓 <small>哩</small>	高壓 <small>哩</small>	計 <small>哩</small>			

注意

第一表第二表及第四表ニ同シ

第六表 敷地別架空電線路 (期末現在)

敷地	電線路互長 <small>哩</small>	支持物數
道		
他ノ官公有地		

電氣事業報告書様式

注意

- 一 本表ハ發電所毎ニ毎月及毎報告期ノ分ヲ調製シ發電所ニ於ケル數量ヲ計上スルコト但シ發電所、變電所、蓄電所又ハ開閉所ニ於テ他ヨリ電氣ノ供給ヲ受クルトキハ其ノ發電所、變電所、蓄電所又ハ開閉所毎ニ其ノ供給ヲ受クル電氣力ニ就キ別ニ本表ヲ調製スルコト
- 二 電力計ノ備付ナキ發電所ニテハ「キロワット」又ハ「キロワット」時ノ代ニ「キロヴォルトアムペア」又ハ「キロヴォルトアムペア」時ヲ以テ表示スルコト
- 三 「本期間平均最大供給電氣力」トハ毎日ニ於ケル最大供給電氣力ノ本期間ニ於ケル平均數ヲ謂フ
- 四 「本期間平均發電機荷重率」トハ毎日ニ於ケル平均供給電氣力ノ毎日ニ於ケル最大供給電氣力ニ對スル比ヲ本期間ヲ通シテ平均シタルモノヲ謂フ
- 五 「本期間平均發電所荷重率」トハ毎日ニ於ケル平均供給電氣力ノ發電所

發電容量(命令ニ依ル豫備發電機ノ容量ヲ除ク)ニ對スル比ヲ本期間ヲ通シテ平均シタルモノヲ謂フ

附

(一) 送電日誌

各發電所、變電所、蓄電所及開閉所ニ於ケル毎月ノ送電日誌中最大電氣力ヲ發生セル日ノ日誌寫ヲ作成セシムルコト但シ日誌ハ會社ノ作成セル記入簿用紙ニ記入シ當日ニ於ケル消耗品ノ數量(燃料、油、檻樓等)其ノ他送電ニ關スル諸記録ハ洩ナク記入スルコト

(二) 火力電氣事業燃料消費量

燃料ノ種類	自 年 月 何ヶ月間		前期ニ比シ増減
	至	年 月	
消費量	總	斤	斤
	一ヶ月平均		
	一夜(又ハ一晝夜)平均		

其ノ送電線、饋電線又ハ電車線ヲ各別ニ計算セル巨長及支持物ノ合計數ハ實際ノ數量ト異ルニヨリ實數欄ニハ送電線、饋電線及電車線ヲ區別セサル實際ノ巨長及支持物數ヲ計上スルコト

三人ノ支持物ニ自己ノ電線ヲ併架セル部分アルトキハ其ノ電線路ノ巨長及支持物數ハ本表中ニ算入セス別ニ其ノ部分ニ就キ本表ニ準シ記載セル調表ヲ添附シ且支持物ノ所屬事業者名ヲ附記スルコト

第二表 地中電線路 (期末現在)

種別	電線路巨長	哩	饋電線路	哩	電車線路	哩	計	哩	實數	
									本期末現在	前期末ニ比シ増減
低壓										
高壓										
特別高壓										
合計										

注意

- 一 他人ノ暗渠、管、樋等ヲ共用シテ其ノ内ニ布設セル部分アルトキハ第一表注意第三項ニ準ス
 - 二 前項ノ外第一表ニ同シ
- 第三表 種類別地中電線延長 (期末現在)

製造者名	種類	心線數	心線ノ太サ	延長

注意

電氣事業報告書様式

二 車庫線及待避線ヲ算入セサルコト

第七表 事業者用電燈箇數及「ワット」數

種別	箇數		取附「ワット」數		總燭光數	
	本期末現在	前期末ニ比シ増減	本期末現在	前期末ニ比シ増減	本期末現在	前期末ニ比シ増減
電車用電燈						
線路用電燈						
其他用電燈						
合計						

注意

電氣鐵道事業ニ使用スルモノ、ミヲ掲クルコト

第八表 車輛及電動機數等 (期末現在)

種別	車輛一臺ノ重量	客車定員又ハ貨車定量	車輛數	同前期末ニ比シ増減	車輛取附電動機總數	一箇ノ馬力數	箇數
	電車						
客車							
貨車							
合計							

種別	電氣機關車		客車		貨車		車	
	「ホギ」車	四輪車	「ホギ」車	四輪車	「ホギ」車	四輪車	合計	合計
重量								
定員/定量								
車輛數								
同前期末ニ比シ増減								
馬力								
電動機總數								
合計								

注意

一 重量ニハ空車ノ重量ヲ掲クルコト

電氣事業報告書様式

二 車輛取附電動機ハ記銘馬力別ニ記載スルコト

第九表 使用車輛數及走行哩數並乘客載貨數量等

營業日數	營業日數		客	車	計	車	比前 シ期 増間 減ニ
	貨車	客車					
本期間總數	平均一日	平均一日	「ホギ」	車	四輪車	計	車
走行哩數	平均一日	平均一日	乘	客	人	人	人
車行輛哩數	平均一日	平均一日	乘	客	人	人	人
使用車輛數	平均一日	平均一日	乘	客	人	人	人

一 哩以下ハ小數一位トス但シ四捨五入ノコト
 二 電氣使用量ハ之ヲ算出セル場所（發電所、變電所等）ヲ記載スルコト

注意

一車一哩ニ對スル電氣使用量	載貨數		車行輛哩數	使用車輛數	計	車	比前 シ期 増間 減ニ
	平均一日	平均一車一哩					
	本期間總數	平均一日	本期間總數	平均一日	計	車	比前 シ期 増間 減ニ

第十表 使用電氣力及電氣力量等

何々發電所	電	氣	鐵	道
本期間使用時間數				
本期間總使用電氣力量				
本期間最大使用電氣力				
本期間平均最大使用電氣力				
本期間平均使用電氣力				
本期間平均發電機荷重率				
本期間平均發電所荷重率				
發電所發電容量	(常用)	[キロワット]	(豫備)	[キロワット]
蓄電池放電容量(三時間放電ニテ)	(常用)	[アムペア]時	(豫備)	[アムペア]時

注意

一 本表ハ發電所毎ニ毎月及毎報告期ノ分ヲ調製シ發電所ニ於ケル數量ヲ計上スルコト但シ發電所、變電所、蓄電所又ハ開閉所ニ於テ他ヨリ電氣ノ供給ヲ受クルトキハ其ノ發電所、變電所、蓄電所又ハ開閉所毎ニ其ノ供給ヲ受クル電氣力ニ就キ別ニ本表ヲ調製スルコト

二 電力計ノ備付ナキ發電所ニテハ「キロワット」又ハ「キロワット」時ノ代

ニ「キロヴォルトアムペア」又ハ「キロヴォルトアムペア」時ヲ以テ表示スルコト

三 「本期間平均最大使用電氣力」トハ毎日ニ於ケル最大使用電氣力ノ本期間ニ於ケル平均數ヲ謂フ

四 「本期間平均發電機荷重率」トハ毎日ニ於ケル平均使用電氣力ノ毎日ニ於ケル最大使用電氣力ニ對スル比ヲ本期間ヲ通シテ平均シタルモノヲ謂フ

五 「本期間平均發電所荷重率」トハ毎日ニ於ケル平均使用電氣力ノ發電所發電容量(命令ニ依ル豫備發電機ノ容量ヲ除ク)ニ對スル比ヲ本期間ヲ通シテ平均シタルモノヲ謂フ

附

(一) 送電日誌

各發電所、變電所、蓄電所及開閉所ニ於ケル毎月ノ送電日誌中最大電氣力

電氣事業報告書様式

物
合計

注意

- 一 哩以下ハ小數一位トス但シ四捨五入ノコト
 - 二 同一ノ電線路ニ送電線、配電線、饋電線又ハ電車線併架ノ部分アル場合ニ於テ其ノ送電線、配電線、饋電線又ハ電車線ヲ各別ニ計算セル巨長及支持物ノ合計數ハ實際ノ數量ト異ルニヨリ實數欄ニハ送電線、配電線、饋電線及電車線ヲ區別セサル實際ノ巨長及支持物數ヲ計上スルコト
 - 三 他人ノ支持物ニ自己ノ電線ヲ併架セル部分アルトキハ其ノ電線路ノ巨長及支持物數ハ本表中ニ算入セス別ニ其ノ部分ニ就キ本表ニ準シ記載セル調表ヲ添付シ且支持物ノ所屬事業者名ヲ附記スルコト
- 第二表 地中電線路 (期末現在)

電線路巨長	種別	送電線路	配電線路	饋電線路	電車線路	計	實數	
							本期末現在	前期末ニ比シ増減
哩	哩	哩	哩	哩	哩	哩	哩	哩

電線延長	合計	低壓	高壓	特別高壓

注意

- 一 他人ノ暗渠、管、樋等ヲ共用シテ其ノ内ニ布設セル部分アルトキハ第一表注意第三項ニ準ス
 - 二 前項ノ外第一表ニ同シ
- 第三表 種類別地中電線延長 (期末現在)

線電配	線電送	製造者名稱	種類	中心線數	心線ノ太サ	延長

注意

「種類」ニハ鍍装、非鍍装ノ別及絶縁物ノ種類等ヲ記載スルコト

第四表 供給區域別架空配電線路 (期末現在)

合計	供給區域	電線路互長 哩	電線延長			柱上變壓器 筒數總容量 〔キロワット〕
			低壓	高壓	計	

注意

一 供給區域ハ市町村毎ニ區別スルコト又供給區域外ニ渉ル配電線ハ便宜ノ區域内ニ算入スルコト
二 前項ノ外第一表ニ同シ

第五表 供給區域別地中配電線路 (期末現在)

合計	供給區域	電線路互長 哩	電線延長			配電函數 筒	變壓函	
			低壓	高壓	計		筒數	總容量

注意

第一表第二表及第四表ニ同シ

第六表 敷地別架空電線路 (期末現在)

電氣事業報告書様式

合 計	道 路	他ノ官公有地	民 有地	電 線 路 長		支 持 物 數	
				本 期 末 現 在	比 前 期 末 增 減	本 期 末 現 在	比 前 期 末 增 減

注 意

第一表ニ同シ

第七表 敷地別地中電線路 (期末現在)

敷 地	電 線 路 長	
	本 期 末 現 在	前 期 末 比 増 減
道 路		
他ノ官公有地		
民 有地		
合 計		

合 計	
-----	--

注 意

第一表ニ同シ

第八表 軌 道 (期末現在)

種 別	軌 道 長		國 道	縣 道	里 道	專 用 道 路	計	前 期 末 比 増 減
	單 線	複 線						
軌 道								
延 長								
合 計								

注 意

- 一 哩以下ハ小數一位トス但シ四捨五入
 - 二 車庫線及待避線ヲ算人セサルコト
- 第九表 需 用 家 數 (期末現在)

電氣事業報告書様式

種 別	供 給 區 域	電 常		電 燈			電	
		併 從 定	計	臨 時 燈	同 弧 光 燈 需 用 家	右 ノ 内 金 屬 線 電 球 需 用 家	機 動 電	熱 電
用 量 額	戶	用 量 額	用 量 額	用 量 額	用 量 額	用 量 額	用 量 額	
	戶							
	戶							
	戶							
	計							
	戶							
	比 前 期 末 ニ 增 減							

力	電 力 需 用 家 實 數	合		電 氣 事 業 需 用 家	電 氣 事 業 需 用 家	電 氣 事 業 需 用 家	其 他 裝 置		
		併 從 定	計					併 從 定	計

注 意

一 供給區域ハ市町村毎ニ區分スルコト
 二 「電燈」ノ部ニハ總テ弧光燈ヲ包含シ不定時燈又ハ便利燈ト稱スルモノ
 ノ如キハ之ヲ臨時燈トシテ計上スルコト

電氣事業報告書様式

本期間從量
計算電力供
給總「キロ
ワット」時

「キロワット」時 「キロワット」時

1130

注意

- 一 電動機ハ記銘馬力別ニ其ノ他ハ「ワット」別ニ記載スルコト
- 二 一馬力ハ七百四十六「ワット」トシテ計算スルコト
- 三 休止中ノモノハ相當欄ニ△印ヲ附シテ別記スルコト
- 四 「電氣事業者タル需用家」ニハ其ノ名稱ヲ記載スルコト
- 五 前各項ノ外第八表及第九表ニ同シ

第十二表 用途別電力装置箇數及「ワット」數

用途	箇數	取附總馬力數	同上換算「ワット」數
用			
精米用電動機			
紡績用電動機			
印刷用電動機			
何用電動機			
何用電熱裝置			
何用電氣分解裝置			
合計			

注意

前表ニ同シ

第十三表 事業者用電燈箇數及「ワット」數

種別	箇數		取付「ワット」數		總燭光數	
	本期末現在	前期末ニ比シ増減	本期末現在 「ワット」	前期末ニ比シ増減 「ワット」	本期末現在	前期末ニ比シ増減
電車用電燈						
線路用電燈						
其他用電燈						
合計						

載貨數	車行哩數		使用車輛數		乗客數	車行哩數		貨	車	前 期 間 ニ 比 シ 増 減
	平均	本 期 間 總 數	平均	本 期 間 總 數		平均	本 期 間 總 數			
一車一日	一車一日	一車一日	一車一日	一車一日	一車一日	一車一日	一車一日	「ボギー」車	四輪車	計
一車一日	一車一日	一車一日	一車一日	一車一日	一車一日	一車一日	一車一日			

使用車輛數	營業日數	客車		貨車	計	前 期 間 ニ 比 シ 増 減
		客車	貨車			
平均	一車一日	「ボギー」車	四輪車			
本 期 間 總 數	一車一日					

注意
 一 重量ニハ空車ノ重量ヲ掲クルコト
 二 車輛取附電動機ハ記銘馬力別ニ記載スルコト
 第十六表 使用車輛數及走行哩數並乗客載貨數量等

合計	車隨附	
	「ボギー」車	四輪車

一車一哩ニ對スル
電氣使用量

注意

- 一 哩以下ハ小數一位トス但四捨五入ノコト
- 二 電氣使用量ハ之ヲ算出セル場所(發電所、變電所等)ヲ記載スルコト

第十七表

供給(又ハ使用)電氣力及電氣力量等

何々發電所	電燈電力(晝間電力ヲ除ク)又ハ電氣鐵道	晝間電力
本期間供給(又ハ使用)時間數	時間	時間
本期間總供給(又ハ使用)電氣力量	「キロワット」時	「キロワット」時
本期間最大供給(又ハ使用)電氣力	「キロワット」	「キロワット」
本期間平均最大供給(又ハ使用)電氣力	「キロワット」	「キロワット」
本期間平均供給(又ハ使用)電氣力	「キロワット」	「キロワット」
本期間平均發電機荷重率	「パーセント」	「パーセント」
本期間平均發電所荷重率	「パーセント」	「パーセント」

發電所發電容量
蓄電池放電容量(三時間放電ニテ)

(常用) 「キロワット」 (豫備) 「キロワット」
(常用) 「アムペア」時 (豫備) 「アムペア」時

注意

- 一 本表ハ發電所毎ニ毎月及毎報告期ノ分ヲ調製シ發電所ニ於ケル數量ヲ計上スルコト但シ發電所、變電所、蓄電所又ハ開閉所ニ於テ電氣供給ヲ受クルトキハ其ノ發電所、蓄電所又ハ開閉所毎ニ供給ヲ受クル電氣力ニ就キ別ニ本表ヲ調製スルコト
- 二 同一ノ發電所ヨリ電氣供給ト電氣鐵道トニ送電スルトキハ同一ノ發電機ヲ共用スル場合ヲ除クノ外電氣供給及電氣鐵道毎ニ本表ヲ調製スルコト
- 右ノ場合ニ於ケル發電所發電容量ハ各其事業ニ使用スル發電機ノ容量ヲ以テスルコト
- 三 本表ハ一表毎ニ(電氣供給用)(電氣鐵道用)又ハ(電氣供給及電氣鐵道

共用)ト記載スルコト

四 電力計ノ備付ナキ發電所ニテハ「キロワット」又ハ「キロワット」時ノ代
リニ「キロヴォルトアムペア」又ハ「キロヴォルトアムペア」時ヲ以テ表
示スルコト

五 「本期間平均最大供給(又ハ使用)電氣力」トハ毎日ニ於ケル最大供給
(又ハ使用)電氣力ノ本期間ニ於ケル平均數ヲ謂フ

六 「本期間平均發電機荷重率」トハ毎日ニ於ケル平均供給(又ハ使用)電氣
力ノ毎日ニ於ケル最大供給(又ハ使用)電氣力ニ對スル比ヲ本期間ヲ通
シテ平均シタルモノヲ謂フ

七 「本期間平均發電所荷重率」トハ毎日ニ於ケル平均供給(又ハ使用)電
氣力ノ發電容量(命令ニ依ル豫備發電機ノ容量ヲ除ク)ニ對スル比ヲ本
期間ヲ通シテ平均シタルモノヲ謂フ

附

(一) 送電日誌

各發電所、變電所、蓄電所及開閉所ニ於ケル毎月ノ送電日誌中最大電氣力
ヲ發生セル日ノ日誌寫ヲ作成セシムルコト但シ日誌ハ會社ノ作成セル記入
簿用紙ニ記入シ當日ニ於ケル消耗品ノ數量(燃料、油、檻樓等)其ノ他送
電ニ關スル諸記録ハ洩ナク記入スルコト
鐵道事業ノ分ニハ當日ノ使用車輛數、乘客數、載貨數量、走行哩數等ヲ記
入スルコト

(二) 火力電氣事業燃料消費量

燃 料 種 類	自 年 月 至 年 月	ヶ 月 間	前 期 間 ニ 比 シ 増 減	消 費 量		價 格
				一 ヶ 月 平 均 量	一 夜 (又 々 一 晝 夜) 平 均 量	
				斤	斤	円
				斤	斤	円

電氣事業報告書様式

消「キロワット」時ニ對スル燃料高料 斤 斤

注意

- 一 石炭ヲ使用スル場合ニハ其ノ炭名及種類(塊炭、粉炭、切込炭等ノ別)ヲ記載スルコト
- 一 「キロワット」時ニ對スル燃料消費高ハ斤以下小數三位トス但シ四捨五入ノコト
- 一 同一ノ發電所ヨリ電氣供給ト電氣鐵道トニ送電スル場合ヲ除クノ外事業別ニ記載スルコト

第十八表 從業者數 (期末現在)

役	管理 者又 ハ會社 重	支配 人事 事務 長又 書記 長	主任 技術 者	技 師	技 手	書 記	工 手	工 夫	運 轉 監 督	車 掌	運 轉 手	轉 手	轉 手	信 手	其 他 事 務	其 他 工 務	合 計

注意

本表ニ掲クル名稱以外ノモノハ便宜相當欄ニ計上スルコト

第十九表 固定資本及收支内譯

固定資本		電氣事業		兼業	
電		料		金	
燈		料		定	
合	其	計	從	定	額
計	他	計	量	額	

電氣事業報告書様式

出 支				
總 計	其 他	兼 業	業 事 氣 電	
			合 計	其 他
			發電所及變電所運轉費 電線路修繕維持費 需用者屋內工作物維持費 軌道及車輛維持費 車輛運轉費	

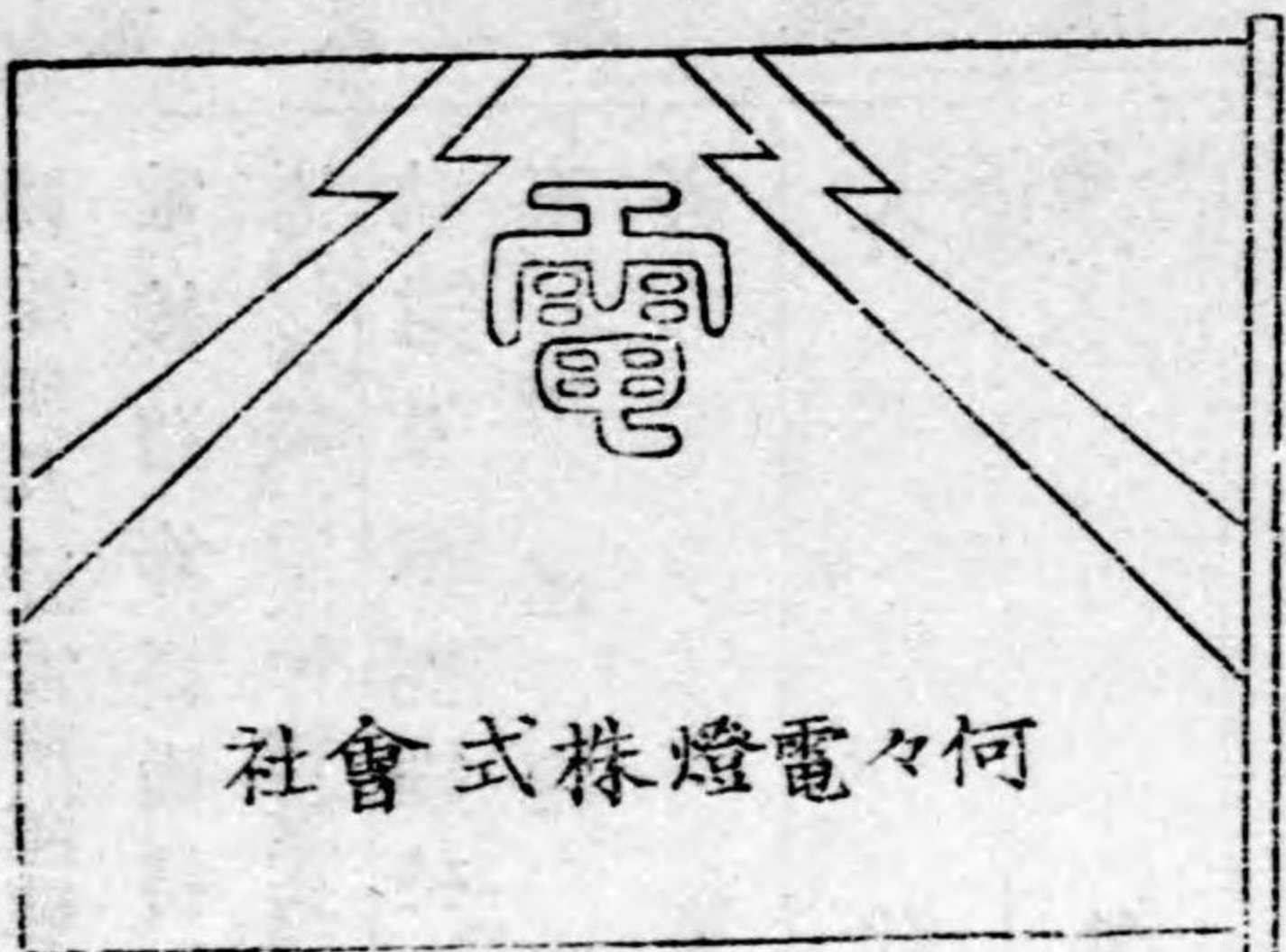
入							
總 計	其 他	兼 業	道 鐵 氣 電		力 電		
			合 計	貨 客 車 車	合 計	其 他	料 金 從 定 額

●電氣事業者標旗及標燈樣式(明治四四、九、二八) 遞令一〇五〇)

電氣事業法施行規則第六十一條及第六十二條ニ依リ使用スル標旗及標燈ハ從前電氣事業取締規則ニ依リ定メタル樣式ニ依ル

第一 標旗ノ制式

一 第六十一條ニ依リ使用スルモノ



地 色 白

縱 一尺五寸

横 二 尺

標章色 赤

電氣事業者ノ商號又ハ名稱ヲ標章ノ下ニ黑書ス

二 第六十二條ニ依リ使用スルモノハ縱二尺横三尺トシ其ノ他ノ制限ハ總テ前項ニ準ス

第二 標燈ノ制式

一 第六十一條ニ依リ使用スルモノ



地 色 白

形 狀 丸形弓張提燈

標章色 赤

電氣事業者ノ商號又ハ名稱ヲ標章ノ下ニ黑書ス

二 第六十二條ニ依リ使用スルモノハ通常高張提燈ノ形狀トシテ其他ノ制限ハ總テ前項ニ準ス

電氣事業者標旗及標燈樣式



● 遞信省管理通信事業工作物ニ關シ承諾
又ハ立會請求ノ件(明治四四、九、二八)
(遞告一〇五一)

電氣工事規程ニ依リ遞信省ノ管理ニ屬スル通信事業用工作物ニ關シ承諾又ハ立會ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ其ノ所轄遞信管理局長ニ之ヲ爲スヘシ

● 電氣ニ關スル注意心得(明治三一、六、三〇)
(遞告一七七〇)

凡ソ電氣事業ノ世ヲ利スルコト大ナルハ論ヲ俟タスト雖モ若シ其取扱ヲ過マルトキハ危險ノ虞ナシトセス決シテ注意ヲ怠ルヘカラス取扱上一人ノ不注意ヨリ甚シキニ至テハ人命財産ニ危害ヲ及ホシ其結果遂ニ電氣事業ノ發達ヲ妨クルニ至ルコトアリ電氣事業ノ當事者ニ於テハ電氣ノ危險ヲ察シ之ニ應スルノ裝置方法ヲ設ケアルモ一般人民ニ於テハ趣意ヲ了解セサル爲メ知ラスシテ危險ニ陥ルコトナシトセス電氣事業者ニ於テハ成ルヘク平易ノ通俗文ヲ以テ懇ニ取扱ノ注意ヲ示シ需用者ニ於テモ當業者ノ注意ヲ服膺シ其取扱上注意ヲ怠ラサルヲ要ス今一般注意スヘキ要項ヲ列舉シテ左ニ之ヲ告示ス

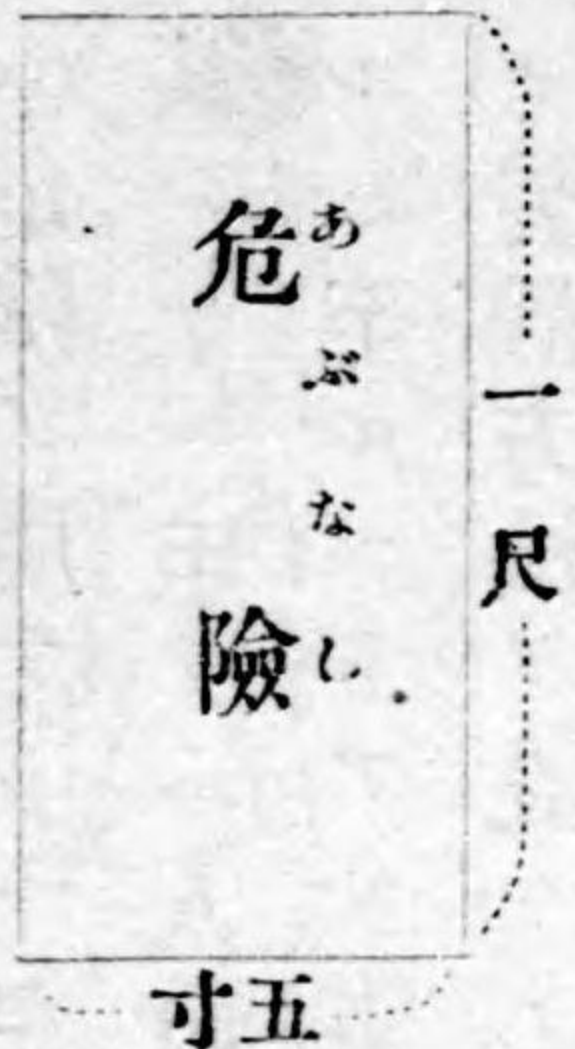
電氣ニ關スル注意心得

電柱及電線ニ關スル注意

一 電柱及電線ニハ成ルヘク接觸セサルヲ良シトス殊ニ暴風雨雪雷鳴

遞信省管理通信事業用工作物ニ關シ承諾又ハ立會請求ノ件 電氣ニ關スル注意心得

ノ際ニハ最モ注意スヘシ低壓電燈電力線及電信、電話線ハ通常危険ナシト雖モ暴風雨雪竝ニ事變ノ際ニハ高壓電燈電力、電氣鐵道用電線ト混觸スルノ虞アレハ右等ノ場合ニハ總テ電柱電線類ニ身體ヲ觸レサルヲ可トス電線ヲ支持スル腕木又ハ電柱ノ一部ノ赤色ニ塗リタルモノハ危険ナル電氣ノ流通シツ、アルヲ示スモノナレハ之ニ接觸スヘカラス殊ニ左ノ標示アルモノハ最モ危険ナルモノナレハ注意スヘシ



二 電柱電線ノ近傍ニ出火アリト雖モ其ノ道ノ心得アルモノ、外安リニ頭部赤色ニ塗リタル電柱又ハ赤色ニ塗リタル腕木ヲ以テ支持スル電線ヲ切斷スル等ノコトヲ試ムヘカラス近傍ニ出火アリ電柱類燒ノ

虞アリトモ安リニ及物ヲ以テ電線ヲ切斷シ又ハ電柱ヲ倒ス等ノコトアルヘカラス此道ニ心得ナクシテ之ヲ試ムトキハ意外ノ危険ニ陥ルコトアリ注意スヘシ

三 電線電柱腕木等ニ破損アルカ之ニ接觸セル物ニ火花ヲ發スルカ又ハ其他ノ異狀アルトキハ直ニ警察官又ハ電氣事業者ニ報知スヘシ電力電燈用ノモノ又ハ之ニ接續セル物品ニ火花ヲ發シ又ハ異狀アルトキハ速ニ警察官吏又ハ電氣會社ノ役員類ニ報知スヘシ但電氣鐵道ニ於テ電車通行ノ際火花ヲ發スルハ通常ナレハ此等ハ別段トス

四 電線ノ切斷垂下セルモノアルモ該事業者ニアラサレハ安リニ之ニ觸ルヘカラス之ヲ移スノ必要アルトキハ相當ノ手當ヲナシ取扱フヘシ殊ニ跣足又ハ草鞋ノ儘素手ヲ以テ之ニ觸ルルカ如キコトアルヘカラス萬一已ムヲ得スシテ切斷垂下線ヲ動カストキハ乾キタル布ニテ厚ク手ヲ包ミ乾燥シタル長キ竹木ノ類ヲ以テ間接ニ之ニ觸ルルヘシ其間乾キタル靴若クハ下駄類ヲ穿ツヲ良トス若跣足又ハ草鞋ノ儘ニ

電氣ニ關スル注意心得

テ及物或ハ金棒類ヲ以テ電線ニ觸ルルトキハ電氣ニ打タルルコトアルカ爲ナリ

室内用電力、電燈線ニ關スル注意

五 室内用電線ハ決シテ損傷セサル様注意シ若シ損傷ノ箇所アルトキハ速ニ修補ノ手續ヲナスヘシ

室内用電線ハ電氣ノ漏泄ヲ防ク爲メ絲「ゴム」又ハ布ニテ包ミタルモノナレハ若シ缺損ノ箇所アルトキハ危險ノ虞アリ世人往々電線ヲ戸障子ノ間ノ如キ開閉ノ爲メ摩擦セラレル所ニ挾ミ又ハ電燈球ヲ疎漏ニ上下運移シ之カ爲メ線ノ外包ヲ破損シ其儘ニ放棄シ置ク如キモノナシトセス此ノ如キハ不時ニ發火スル如キ危險ノ虞アレハ速ニ電氣事業者ニ報知シ改修スルヲ要ス

六 室内電線ハ決シテ之ヲ金屬ニ接セシメ又ハ釘ニ懸クル等ノコトヲナスヘカラス

電線ヲ金屬ニ接セシメ又ハ釘ニ懸ル如キノ類ハ其外包ノ損傷ヲ來シ

易ク電氣ノ漏泄ヲ醸生スルノ虞アルモノナレハ務メテ之ヲ避クヘシ

七 室内用電線電燈球其他電氣器具ハ成ルヘク濕ラサル様注意シ濕手ニテ扱フヘカラス

電燈ノ點滅若クハ電流ノ送停ヲナス爲メ備ヘタル開閉器ヲ使用スルノ外成ルヘク電線電氣器具等ニ觸ルルヘカラス

電線其他電氣器具ヲ濕ラストキハ電氣ノ漏泄ヲ導キ易ク危害ヲ招クノ虞アリ注意スヘシ

電氣器具及室内電線等ヲ玩弄シ又ハ水氣アル手指ニテ扱ヒ或ハ跣足ノ儘土間ニ在リテ之ニ觸ルル等ハ電氣ニ感シ易ク危險ナレハ電氣需用者ハ厚ク婢僕等ニ教ヘ常ニ注意セシムヘシ

觸電者ニ對スル應急取扱法

八 若シ電氣ノ爲メニ氣絶シタル者アラハ直ニ被害者ヲ其電線ヨリ取離スカ又ハ電氣ノ傳ラサル様適宜ノ方法ヲ施スヘシ

九 電氣ノ傳ラサル様ナスニハ電氣事業者ヲシテ適當ナル方法ヲ採ラ

シムヘキハ勿論ナルモ其時間ナキ場合ニ於テハ乾キタル竹木ノ長キ柄ヲ有スル刃物ニテ電線ヲ斷テ切ルカ(危険ノ標示アル電線ヲ除ク)又ハ被害者ヲ電線ヨリ引卸スヘシ此場合ニハ素手ニテ爲ササル様注意シ必ス乾キタル竹木或ハ布切類ノ如キ電氣ノ傳リ難キ物ヲ用ヒテ之ヲ行フヘシ

十 電氣ニ觸レ氣絶シタル者アラハ直ニ醫師ヲ招キテ相當ノ手當ヲ爲スヘキハ勿論ナルカ尙ホ醫師ノ來ル迄トテモ決シテ等閑ニ捨置クヘカラス假ヒ蘇生ノ見込ナキ様見ユルモ少クトモ一時間半以上人工呼吸法ヲ用ユルカ或ハ他ノ適宜ノ方法ニテ蘇生ノ手段ヲ施スヘシ

●電撃ニヨリテ假死シタル人ヲ蘇生セシムル方法

人若シ電氣ニ觸レ其電撃ヲ受ケテ氣絶シタル時ハ長ク之レヲ放置スルカ或ハ之レニ蘇生セシムルノ手當ヲ爲スモ暫時ニシテ之レヲ中止スル時ハ往々眞ニ死亡スルコトアリ故ニ此クノ如キ場合ニハ最モ迅速ニ最モ落付キ丁寧ニ手當ヲ施スコト肝要ナリトス

從來起リシ電撃ノ實例ヲ視ルニ多クハ人體カ電流ノ通過スル導體ニ瞬時不完全ニ觸レテ電流ノ作用人體ニ及ホス者ニシテ其作用ハ僅カニ人體ノ活動呼吸ヲ一時中止スルノミ然レトモ稀レニハ導體ニ完全ニ觸レ充分ノ作用ヲ受クルコトアリ然シ之トテモ人體カ一時全電路ノ枝路トナリテ一部ノ電流人體ニ來ルモノナレハ其作用モ亦從ヒテ激シカラス故ニ電撃ヲ受ケテ假死スルモ適當ノ方法ニヨリテ之ヲ蘇生セシムルコトヲ得次ニ記載スル方法即チ之レナリ

第一 電撃ヲ受ケテ倒レ氣絶シタル人アレハ直チニ之レヲ接觸ノ電導體ヨリ離シ電路ヨリ遠サク可シ之レヲ爲スニハ電氣不導體ナル乾キタル木ノ棒ニテ其體ヲ動カス可シ若シ乾キタル棒ナケレハ「ゴム」ノ手袋ヲ嵌ムルカ又ハ乾キタル布ニテ手ヲ包ミ直接ニ電流ニ觸レサル様其ノ體ヲ動カス可シ體若シ地面ニ接セル場合ハ體ヨリ成ル可ク遠サカリタル衣服ノ端ヲ握リ體ヲ電導體ヨリ引離スヘシ次テ

第二 體ヲ仰向ケニナシ頸ノ周邊ノ襟及衣類ヲ弛メ上衣ヲ脱シ之レヲ疊ミ肩ノ下ニ布キ頸ヲ後ロニ垂レシメ溺死者ニ對シ施スカ如キ人爲呼吸法ヲ行フ可シ即第一圖ニ示スカ如ク其頸ノ前ニ膝ツキ其腕ヲ握リ頭ノ上迄充分延ハサシム可シ之レニ因リテ胸廓擴大セラレ空氣ヲシテ肺中ニ進入スルコト容易ナラシムルナリ斯ク腕ヲ延ハシ置クコト二三秒ノ後兩腕ヲ前方ニ曲ケ胸部ニ置クコト第二圖ニ示スカ如クナセハ胸部ハ腕ニ強ク壓迫セラレ胸中ニ入りタル空氣ハ外部ニ押シ出サル斯クノ如クナスコト一分間ニ少クモ十六回ノ割合ヲ以テ一時間以上休ミナク續ケ行フヘシ然ルト

キハ自然ニ呼吸ヲ呼起スニ至ル可シ

第三 以上ノ人爲呼吸法ヲ行ヒツ、アル間ニ他ノ一人ハ「ハンケチ」或ハ布切ニテ氣絶者ノ舌ヲツマミ前項ノ兩腕ヲ延ハス際強ク舌ヲ引出シ又兩腕ニテ胸部ヲ壓迫スルトキ舌ヲ元ニ戻スヘシ之レモ亦一分間ニ十六回繰返シ行フヘシ之レニ依リテ咽喉ハ開キ空氣ヲシテ肺ニ進入シ易カラシム口ヲ閉チテ舌ヲツマムコト能ハサレハ棒、木片或ハ小刀ノ柄等ニテ無理ニ口ヲ開カス可シ

第四 顔ニ冷水ヲ注クコトハ時トシテ蘇生ニ効アリ若シ効ナケレハ氷塊ヲ以テ脊骨部ヲ強ク摩擦ス可シ心臟部ニ寒溫交モ加フルハ亦同一ノ目的ヲ達スルコトアリ然レトモ通常ノ方法ニヨリ興奮劑ヲ咽喉中ニ注入シ以テ興奮セシメンコト無益ナルヲ以テ決シテ行フヘカラス一方ニ於テハ以上ノ方法ヲ行ヒ一方ニ於テハ醫師ヲ招ク可シ醫師來レハ更ニ次ノ方法(第五、第六、第七)ヲ實行スルコト宜シカラス

第五 肛門括約筋ノ牽張ハ又大ニ刺戟ヲ與フルノ効アリ由テ體ヲ横ニ寢カ

シ中指及人差指ヲ直腸ニ押入レ筋肉ヲ背骨ノ方ヘ急ニ烈シク押スヘシ之ニ依リテ體ニ刺戟ヲ與ヘ呼吸引キ起シ得ルコトアリ若シ之レト同時ニ第二第三ノ人爲呼吸法ヲ引續キ行ハント欲セハ體ヲ仰向ニナシ膝ヲ立テシメ拇指ヲ直傷ニ押入レ前ノ如ク取扱フ可シ

第六 以上ノ方法ニヨリ尙蘇生ノ目的ヲ達スル能ハサレハ假死者ノ舌ヲ握リ急ニ強ク出來得ル限リ之ヲ引出シ次キテ手ヲ放チ自然ニ原位置ニ復セシムヘシ是亦一分間ニ十六回ノ割合ヲ以テ繰返ス可シ

第七 酸素瓦斯ハ有力ノ刺戟劑ナルカ故ニ之レヲ藥劑店ヨリ買取り其瓶ニ附着セル管ニ硬キ紙ニテ造リタル漏斗形ノモノヲ取付ケ之レヲ以テ口及鼻ヲ覆ヒ人爲呼吸法ヲ行フト同時ニ酸素ヲ送ル可シ然ラハ酸素瓦斯ハ肺中ニ入りテ之レニ活動ヲ與ヘ蘇生ヲ助クルモノナリ

(圖面略ス)

●朝鮮電氣事業取締規則(明治四四、三、六)(明治四五、四、朝鮮令二四)(朝鮮令八六改正)

- 第一章 總 則
 - 第二章 許可、認可、申請及届出
 - 第三章 工事ノ著手、落成、検査及使用認可證
 - 第四章 主任技術者
 - 第五章 工事施設、送電及記録
 - 第一節 通 則
 - 第二節 電燈及電力
 - 第三節 電氣鐵道
 - 第六章 監査、試験、改修及停止並許可、認可ノ失效及取消
 - 第七章 罰 則
 - 第八章 官廳施設電氣事業
- 附 則

第一章 總則

第一條 本令ニ於テ電氣事業ト稱スルハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

- 一 一般ノ需用ニ應シ電氣ヲ供給スルモノ
- 二 一般運送ノ用ニ供スル鐵道輕便鐵道及軌道ヲ含ム以下同シノ動力ニ電氣ヲ使用スルモノ
- 三 前二號ノ外電氣ヲ使用又ハ供給スルモノ但シ他ヨリ電氣ノ供給ヲ受クルモノニシテ其ノ使用上ノ責任ヲ供給者ニ於テ負擔スルモノヲ除ク

第二條 本令ハ左ニ掲クルモノニ之ヲ適用セス

- 一 電信、電話又ハ信號ニ電氣ヲ使用スルモノ
 - 二 一般運送ノ用ニ供スル官設鐵道ノ動力及其ノ車輛内ニ電氣ヲ使用スルモノ
 - 三 電線路ノ施設ナクシテ車輛又ハ船舶ニ電氣ヲ使用スルモノ
 - 四 電壓十「ヴォルト」以下ノ電氣ヲ使用スルモノ
- 第三條 本令ニ於テ電線ト稱スルハ電氣傳送ニ用ウル金屬體ヲ謂フ

第四條 本令ニ於テ電路ト稱スルハ發電機其ノ他ノ機械、器具、電線、大地等電流ノ通スル一全路ヲ謂フ

第五條 本令ニ於テ電線路ト稱スルハ屋外ニ施設スル電線及之ヲ支持シ又ハ保藏スル工作物ヲ謂フ

第六條 本令ニ於テ電氣工作物ト稱スルハ電氣ノ供給又ハ使用ノ爲施設シタル機械、器具、電線路及其ノ他ノ工作物ニシテ直接電氣事業ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

第七條 本令ニ於テ引込線ト稱スルハ使用場所外ノ最終ノ支持物ヨリ使用ノ場所ニ達スル屋外電線ヲ謂フ

第八條 本令ニ於テ電車ト稱スルハ電動車及電氣機關車ヲ謂フ

第九條 本令ニ於テ低壓ト稱スルハ直流式ニ在リテハ六百「ヴォルト」、交流式ニ在リテハ三百「ヴォルト」ヲ超過セサル電壓ヲ謂ヒ高壓ト稱スルハ低壓ノ制限ヲ超過シ三千五百「ヴォルト」ヲ超過セサル電壓、特別高壓ト稱スルハ高壓ノ制限ヲ超過スル電壓ヲ謂フ

交流式ノ電壓ヲ表示スルニハ實效電壓ヲ以テス

第二章 許可、認可、申請及届出

第十條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業ヲ經營セムトスル者ハ起業目論見書及工事設計書ヲ具シ朝鮮總督ニ許可ヲ申請スヘシ
前項ノ申請書ニハ電氣事業者ノ商號又ハ名稱、工事費豫算及事業上ノ收支概算ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

第十一條 前條ノ起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 事業ノ目的
- 二 資本金
- 三 供給區域又ハ鐵道ノ經過地名
- 四 發電所、變壓所、配電所ノ位置並其ノ位置ヨリ供給區域又ハ鐵道ニ達スル電線路ノ經過地名

前項第三號ノ供給區域及第四號ノ事項ハ別ニ縮尺及電線路互長ノ概數ヲ記載シタル圖面ヲ以テ表示シ又第三號ノ鐵道ノ經過地ハ縮尺二萬五千分

ノ一以上トシ鐵道ノ位置、近傍ノ地名、他ノ鐵道ト交叉スル所アルトキハ其ノ交叉點ノ前後二町以内ニ在ル鐵道ノ位置、鐵道ノ位置ヨリ約一町以内ニ在ル架空ノ電信線、電話線、電氣信號線、電燈、電力、電氣鐵道用電線ノ位置、單線式其ノ他電路ノ一部トシテ大地ヲ使用スル方式ノ電氣鐵道ニ在リテハ鐵道ノ位置ヨリ約十町以内ニ在ル地中施設ノ金屬線、金屬管其ノ他金屬體ノ位置ヲ記載シタル圖面ヲ以テ表示スヘシ

前條ノ工事設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ第五號ノ事項ハ第一條第二號ノ電氣事業ヲ經營セムトスル者ニ限ル

- 一 原動力ノ種類水力、火力、電動
- 二 電氣方式特別高壓、高壓、低壓ノ區別、直流式、交流式ノ區別、單相式、二相式、三相式等ノ區別、二線式、三線式ノ區別等
- 三 「ワット」數及最大電壓多線式ニアリテハ最大ノ電壓ヲ與フル兩線間ノ電壓又電流變式機及電動發電機ニ在リテハ一次及二次回線及最大電壓
- 四 電線路ノ種類架空線、地中線ノ區別等
- 五 電氣鐵道方式架空單線式、架空複線式、暗渠單線式、暗渠複線式ノ區別等

第十二條 電氣事業ノ許可ヲ受ケタル後起業目論見書又ハ工事設計書ノ

事項ヲ變更セムトスルトキハ關係ノ書類及圖面ヲ具シ朝鮮總督ニ許可ヲ申請スヘシ

第十二條 電氣事業ノ許可ヲ受ケタル者ハ指定ノ期間内ニ左ノ書類ヲ具シ朝鮮總督ニ工事施行ノ認可ヲ申請スヘシ

- 一 工事設計明細書
 - 二 工事費豫算書
 - 三 落成期限書 工事ヲ數部ニ區分シ各部ノ落成毎ニ第三十六條ノ檢査ヲ受ケムトスルトキハ其ノ各部ノ落成期限
 - 前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ
 - 一 組合事業ニ在リテハ其ノ組合ニ關スル契約書謄本
 - 二 會社ニ在リテハ其ノ登記謄本及定款謄本
 - 三 公共團體ニ在リテハ其ノ團體ノ決議書
- 第一項ノ申請書ハ第十條ノ申請書ト同時ニ之ヲ提出スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ工事設計書ハ之ヲ提出スルコトヲ要セス
- 朝鮮總督ニ於テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ電氣事業者ノ申請ニ依リ

第一項ノ期間ヲ伸長スルコトアルヘシ
第十四條 工事設計明細書ニハ左ノ事項及圖面ヲ記載又ハ具備スヘシ

- 一 原動機 汽罐ノ種類、筒數、常用汽壓、馬力數(又ハ加熱面積、加爐面積)、水車ノ種類、筒數、馬力數、流量、落差、調整器ノ種類、汽機、瓦斯發動機、石油發動機、電動機等ノ種類(電動機ハ發電機ノ例ニ倣フ)、馬力數、調整器ノ種類其ノ他附屬機械、器具ノ種類及筒數等
- 二 發電所、變壓所又ハ配電所ニ於ケル機械、器具ノ裝置及接續法並其ノ圖面
- 三 發電機、電動發電機、電流變式機、蓄電池及「ブスター」ノ種類、筒數及「ワット」數 電流ノ種類(交流式ニ在リテハ周波度數、單相式、二相式、三相式等ノ區別、結線法共)、勵磁法(直流式ニアリテハ直列卷、分電卷、複卷ノ區別、交流式ニ在リテハ單一勵磁、合成勵磁等ノ區別共)、最大電壓(多線式ニ在リテハ最大電壓ヲ與フル兩線間ノ電壓、電流變式機及電動發電機ニ在リテハ一次及二次回線ノ最大電壓)
- 四 變壓器ノ種類 一次及二次回線ノ電壓、單相式、二相式、三相式等ノ區別(結線法共)
- 五 電氣方式 特別高壓、高壓、低壓ノ區別、直流式、交流式ノ區別、單相式、二相式、三相式等ノ區別、二線式、三線式ノ區別等
- 六 電線路ノ種類及其ノ構造 架空線、地中線ノ區別、裸線、被覆線ノ區別、電線並被覆絕緣物ノ種類及電線路構造ノ大要
- 七 電線路圖 發電所、變壓所、配電所及電線路ノ位置並其ノ近傍ノ地名等ヲ記入シタル縮尺圖

八 保安裝置

閉閉器、自動遮斷器、檢漏器ノ種類及避雷ノ裝置、他ノ電線トノ混觸豫防裝置、高壓及低壓電線相互ノ接觸ヨリ生スル危險豫防裝置、危險豫防ノ爲器具、材料ニ設備シタル接地其ノ他ノ裝置

第一條第二號ノ電氣事業ニ在リテハ前項各號ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

但シ前項第六號ノ事項ニ關シテハ電車線ノ品質、形狀、太サ、腕金式、吊線式ノ區別等ヲモ記載スヘシ

一 電車内機械、器具ノ裝置及接續法並其ノ圖面

二 電車内電動機、蓄電池ノ種類、箇數及馬力數又ハ「ワット」數並附屬機械、器具ノ種類

電流ノ種類(交流式ニ在リテハ周波度數、單相式、二相式、三相式等ノ區別、結線法共)、勵磁法(直流式ニ在リテハ直列卷、分電卷、複卷ノ區別、交流式ニ在リテハ單一勵磁、合成勵磁等ノ區別共)、最大電壓(多線式ニ在リテハ最大電壓ヲ與フル兩線間ノ電壓、電流變式機及電動發電機ニ在リテハ一次及二次回線ノ最大電壓)

三 電氣鐵道方式

架空單線式、架空複線式、暗渠單線式、暗渠複線式ノ區別等

四 鐵道ノ構造

軌鐵ノ種類、重量、軌間並鐵道橫斷圖面(單線式其ノ他電路ノ一部トシテ大地ヲ使用スル方式)ノ電氣鐵道ニ在リテハ尚「ボンド」線及補助線ノ種類太サ、其ノ他軌鐵ノ接續法又暗渠式及鉗式等ニ在リテハ其ノ構造及電線施設法共)

五 電車ノ構造、重量及運轉車輛數

制御機、制動機、遮斷器、排障器ノ種類、信號法及鐵道ト他ノ鐵道ト交叉スル場合ニ於ケル衝突豫防法等

六 防難裝置

制動機、制動機、遮斷器、排障器ノ種類、信號法及鐵道ト他ノ鐵道ト交叉スル場合ニ於ケル衝突豫防法等

七

鐵道實測
平面及縱斷面圖

平面圖ノ縮尺ハ二萬五千分ノ一以上トシ鐵道ノ位置及互長、近傍ノ地名、道路ノ幅員、他ノ鐵道ト交叉スル所アルトキハ其ノ位置及前後二町以內ニ在ル部分、電氣鐵道ニ在ル部分、單線式其ノ他電路ノ一部トシテ大地ヲ使用スル方式ノ電氣鐵道ニ在リテハ其ノ鐵道ノ位置ヨリ約十町以內ノ區域ニ在ル地中施設ノ金屬線、金屬管其ノ他金屬體ノ位置、發電機又ハ電流變式機ノ一極ヲ接地シタル點ノ位置、縱斷面圖ノ縮尺ハ長サハ平面圖ト同一ニシテ高サハ千八百分ノ一以上トシ中心線、地面ノ高低、築堤、切取、隧道、橋梁ノ位置、道路又ハ他ノ鐵道ト交叉スル場合ニ在リテハ其ノ位置、鐵道ノ勾配及經過地名

第十五條 第一條第三號ノ電氣事業ヲ經營セムトスル者ハ第十一條第一

項第一號第三號及第四號ノ事項ヲ記載シタル書類及圖面ノ外第十四條ノ

工事設計明細書及落成期限書ヲ具シ朝鮮總督ニ認可ヲ申請スヘシ

左ニ掲クルモノヲ除クノ外二千「ワット」ヲ超過セサル低壓電氣ヲ供給又

ハ使用セムトスル者ハ前項ノ申請ヲ要セス其ノ工事施設ノ後遲滞ナク前

項ニ準シ管轄警務部長 京城ニ在リテハ朝鮮總督府警務部長以下同シニ届出ツヘシ其ノ届出ノ事項ニ

變更ヲ生シタルトキ亦同シ

一 火藥又ハ石油ノ貯藏場、紡績又ハ綿打工場其ノ他爆發性、燃燒性若

クハ發火性ノ物質ヲ製造シ又ハ藏置スル場所ニ電氣ヲ使用スルモノ

二 爆發性、燃燒性若ハ發火性ノ瓦斯其ノ他ノ物質ヲ發生スルノ虞アル場所ニ電氣ヲ使用スルモノ

第十六條 電氣事業者工事設計明細書又ハ落成期限書其ノ他認可ニ係ル事項ヲ變更セムトスルトキハ關係書類及圖面ヲ具シ朝鮮總督ニ認可ヲ申請スヘシ但シ第十九條及第二十條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

發電所、變壓所又ハ配電所ノ電氣工作物ヲ撤去スルニ依リ工事設計明細書中ノ事項ニ變更ヲ生スルモ電氣方式及其他ノ電氣工作物ノ状態ニ變更ヲ生セサル場合ニハ前項ノ手續ニ依ラス直ニ關係書類及圖面ヲ具シ朝鮮總督府遞信局長官ニ届出ヲ爲スコトヲ得

第十七條 電氣事業者第一條第二號ノ電氣事業ニ關スル起業目論見書、工事設計書、工事設計明細書及工事費豫算書ヲ提出スル場合ハ之ヲ鐵道ニ關スル許可又ハ認可ノ申請書類ト共ニ提出スヘシ

第十八條 第一條第一號ノ電氣事業者ハ料金其ノ他電氣供給ノ條件ヲ定メ朝鮮總督ヘ認可ヲ申請スヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十九條 電氣事業者第三十六條ニ依リ使用認可證ノ下付ヲ受ケタル後電線路ヲ新設、延長又ハ其ノ位置ヲ變更セムトスルトキハ左ノ書類及圖面ヲ具シ警務部長ニ工事施行ノ認可ヲ申請スヘシ其ノ落成期限ヲ變更セムトスルトキ亦同シ但シ引込線、共同引込線二箇以上ノ使用場所ニ達スル引込線使用者構内、發電所、變壓所及配電所構内ノ電線路ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

- 一 電線路圖發電所、變壓所、配電所及電線路ノ位置並其ノ近傍ノ地名等ヲ記入シタル縮尺圖
- 二 落成期限書工事ヲ數部ニ區分シ各部ノ落成毎ニ第三十六條ノ検査ヲ受ケムトスルトキハ其ノ各部ノ落成期限

第二十條 同一支持物又ハ同一暗渠内ニ於テ電線ヲ増設若ハ撤去シ又ハ電線路ヲ撤去シタルトキハ遲滯ナク警務部長ニ届出ツヘシ但シ引込線、共同引込線並使用者構内、發電所、變壓所又ハ配電所構内ノ電線路ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 火災其ノ他ノ原因ニ因リ電氣工作物ヲ滅失損壞シタル爲復舊工事ヲ施サムトスルトキハ電線路ニ關シテハ第十九條ノ規定ヲ準用シ其ノ他ノ電氣工作物ニ關シテハ第十六條第一項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ工事ヲ急施スル必要アルトキハ其ノ滅失若ハ損壞シタル電氣工作物ノ原狀ヲ變更セサル場合ニ限リ前項ノ手續ニ依ラス遞信局長官ニ届出ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業者ハ警務部長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ事業ノ全部又ハ一部ノ休止ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業者ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クルニ非サレハ事業ヲ廢止スルコトヲ得ス

第二十四條 左ノ場合ニハ電氣事業者遲滞ナク其ノ事項ヲ具シ遞信局長官ニ届出ツヘシ

一 電氣ノ使用ヲ開始シタルトキハ其ノ年月日

二 電氣事業者其ノ名稱又ハ商號ヲ變更シタルトキハ其名稱又ハ商號

第二十五條 左ノ場合ニハ電氣事業者其ノ日時、場所、原因其ノ他必要ナル事實ヲ具シ警務部長ニ届出ツヘシ

一 電氣事業者ヨリ災害其ノ他ノ故障ヲ生シタルトキ

二 送電ヲ中止又ハ之ヲ復舊シタルトキ

第二十六條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業者ハ毎年決算期又ハ六月及十二月ニ於テ事業概況報告書ヲ調製シ遞信局長官ニ届出ツヘシ

前項ノ報告書ニハ業務上各般ノ報告、報告期末現在ニ於ケル電線路互長及電線延長、需用者數並電燈、電動機及電車ノ箇數ヲ記載スヘシ但シ電線ノ延長ハ電壓ノ類別ニ依リ、電燈ハ白熱燈、弧光燈及「ワット」數ニ依リ、電動機及電車ハ其ノ種類及「ワット」數ニ依リ區別スヘシ

第二十七條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業者其ノ事業ヲ讓渡サムトスルトキハ當事者連署ノ上朝鮮總督ニ許可ヲ申請スヘシ

前項ノ讓渡ヲ終了シタルトキ又ハ第一條第三號ノ電氣事業者其ノ事業ヲ讓渡シタルトキハ當事者ヨリ遲滞ナク遞信局長官ニ届出ツヘシ

電氣事業ヲ相續シタル者ハ前項ノ規定ニ準シ届出ツヘシ

第二十八條 電氣事業ヲ讓受又ハ相續シタル者ハ讓渡人又ハ被相續人カ本令ニ依リテ有スル權利義務ヲ承繼ス

第二十九條 本令ニ依リ提出スル書類及圖面中技術ニ關スルモノハ主任技術者之ニ署名捺印スヘシ其ノ主任技術者ノ選任前ニ在リテハ擔當技術者之ニ署名捺印スヘシ

第三十條 朝鮮總督、遞信局長官又ハ警務部長ハ許可又ハ認可ニ條件ヲ附シ又ハ審査上必要ト認ムル書類及圖面ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第三十一條 本令ニ依リ朝鮮總督又ハ遞信局長官ニ提出スヘキ書類及圖面ハ警務部長ヲ經由スヘシ

第三十二條 警務部長ハ前條ノ書類ニ意見ヲ附シ遞信局長官ニ提出スヘシ但シ第十條第一項ノ電氣事業許可申請書及第十三條第一項ノ工事施行認可申請書ニ限リ道長官ヲ經由スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ事業カ他ノ地方管内ニ係ルモノナルトキハ道長官ヨリ關係道長官ニ商議スヘシ

第三十三條 警務部長ハ許可、認可若ハ命令シタル事項ヲ其ノ都度遞信局長官ニ通報スヘシ

第三章 工事ノ著手、落成、検査及使用認可證

第三十四條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ指定ノ期間内ニ工事ニ著手スヘシ第十六條又ハ第十九條ノ認可ヲ受ケタルトキ亦同シ

朝鮮總督又ハ警務部長ニ於テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ電氣事業者ノ申請ニ依リ前項期間ノ伸長ヲ認可スルコトアルヘシ

第三十五條 電氣事業者工事ニ著手シタルトキハ遲滞ナク其ノ認可ヲ受ケ又ハ届出ヲナシタル官廳ニ届出ツヘシ其ノ落成シタルトキ亦同シ

第三十六條 遞信局長官又ハ警務部長ハ工事落成ノ届出アリタルトキハ吏員ヲシテ其ノ電氣工作物ヲ検査セシメ支障ナシト認ムルトキハ電氣事業者ニ使用認可證ヲ下付スヘシ但シ検査ノ必要ナシト認ムルトキハ直ニ使用認可證ヲ下付スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ検査ノ結果電氣工作物ヲ不完全ナリト認ムルトキハ其ノ改修ヲ命スヘシ

第三十七條 前條ノ検査吏員ハ検査ノ結果危険ノ虞ナシト認ムルモノニ限
リ電氣事業者ニ假使用認可證ヲ下付スルコトアルヘシ
前項假使用認可證ノ效力ハ其ノ下付ノ日ヨリ起算シ六十日以内トス但シ
其ノ期間内 雖逓信局長官又ハ警務部長ニ於テ電氣工作物ヲ不完全ナリ
ト認ムルトキハ其ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第三十八條 第三十五條ニ依リ届出ヲ要スル電氣工作物ハ使用認可證又ハ
假使用認可證ノ下付ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ第
二十一條第二項ノ電氣工作物ニ限り其ノ落成ノ日ヨリ六十日間ヲ限り使
用認可證又ハ假使用認可證ノ下付ヲ受ケスシテ之ヲ使用スルコトヲ得

第四章 主任技術者

第三十九條 電氣事業者ハ工事著手前學識經驗アル主任技術者ヲ選任シ技
術ニ關スル事項ヲ擔任セシムヘシ但シ第一條第三號ノ電氣事業ニシテ第
十五條第二項ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四十條 電氣事業者主任技術者ヲ選任又ハ改任シタルトキハ遲滯ナク

左ノ事項ヲ具シタル履歷書ヲ添へ逓信局長官ニ届出ツヘシ

一 主任技術者ノ氏名、住所、年齢及國籍

二 學 歴

三 官廳、公署又ハ會社其ノ他ノ事業ニ從事シタルトキハ其ノ勤務場所、
職務ノ種類及其ノ終始ノ年月日

四 卒業又ハ修業證書ノ謄本

第四十一條 逓信局長官ハ不適任其ノ他ノ事由ニ因リ主任技術者ノ改任ヲ
命スルコトアルヘシ

第四十二條 主任技術者疾病、不在其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ擔當ノ職務ヲ
執ルコト能ハサルコト三十日以上ニ互ルトキハ電氣事業者ハ其ノ代務者
ヲ選任シ通信局長官ニ届出ツヘシ
代務者ノ行爲ニ付テハ主任技術者其ノ責ニ任ス

第五章 工事施設、送電及記録

第一節 通 則

第四十三條 電路ハ大地ヨリ絶縁スルコトヲ要ス但シ危険又ハ障害ノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ遞信局長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條 電路ニハ必要ナル場所ニ避雷装置及開閉器ヲ設備スヘシ

第四十五條 電路ニハ漏電ヲ檢スルノ装置ヲ爲スヘシ但シ遞信局長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス

第四十六條 電線ハ使用電流ノ爲攝氏二十度以上ノ溫度ヲ増スコトナク且其ノ絶縁物ハ之カ爲變化ヲ顯ハサザルモノナルコトヲ要ス

第四十七條 各電線ニハ如何ナル場合ニ於テモ電流ノ爲攝氏四十度以上ノ溫度ヲ増ササル様完全ナル自働遮斷器ヲ装置スヘシ

各高壓電線並電氣鐵道用各幹線ニハ發電所及變壓所ニ於テ特ニ銳敏ナル自働遮斷器ヲ装置スヘシ

第四十八條 架空電線ハ絶縁物ヲ以テ被覆シ且外物ニ觸ルルモ容易ニ損傷セサル様外装スヘシ

三百「ヴォルト」以上ノ低壓ニ使用スル架空電線ハ二重以上ノ木綿編組線ニシテ其ノ被覆物ハ常ニ耐水質絶縁性ヲ具ヘ且其ノ厚サ五厘以上ノモノ又ハ之ト同等以上ノモノナルコトヲ要ス

高壓ニ使用スル架空電線ハ護謨又ハ之ニ相當スル良好ナル絶縁物ヲ以テ被覆シ其ノ厚サ三厘五毛以上ニシテ其ノ絶縁力ハ二十四時間以上水中ニ浸シ一百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ一分間充電ノ後攝氏十五度ニ於テ一里ニ付四十萬「オーム」以上ノモノナルコトヲ要ス

左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ前二項ニ適合セサル電線ヲ使用スルコトヲ得

一 堅牢ナル電線墜落豫防装置ヲ爲シ斷線スルモ危険ノ虞ナキトキ又ハ相當ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用スルトキ

二 電信線、電話線又ハ電氣信號線トノ電氣的混觸ヲ豫防スル架空線ノ上部ニ堅牢ナル豫防装置ヲ爲ストキ但シ架空電線ノ上部ニ於テ之ト交叉若ハ接近シテ電信線、電話線又ハ電氣信號線ノ架设ナキ場所ニ

在リテハ其ノ架設ニ至ル迄此ノ装置ヲ爲ササルコトヲ得

人家ヲ離隔シ交通稀少ナルカ又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ危険ノ虞ナシト認
ムル場合ニハ遞信局長官ノ認可ヲ受ケ前各項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
本條ノ規定ハ電車線ニ之ヲ適用セス

第四十九條 架空電線ハ電車線ヲ除クノ外直徑六厘五毛ノ圓形ノ銅線又ハ
之ト同等以上ノ強力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第五十條 市街地ニ限リ道路ニ建設スル架空電線路ハ左ノ制限ニ依ルヘ
シ但シ工地上又ハ土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得サル場所ニシテ遞信局長官
ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス

一 道路ノ兩側ニ跨ラス其ノ一側ニノミ架設スルコト

二 道路ノ一側ニ架空ノ電信線、電話線又ハ電氣信號線アルトキハ他ノ

一側ニ架設スルコト、若其ノ一側ニ架空ノ電燈、電力又ハ電氣鐵道
用電線アルトキハ之ト同側ニ架設スルコト

本條ノ規定ハ電車線ニ之ヲ適用セス

第五十一條 架空電線ハ地表ヲ距ル十六尺以上トシ造營物ニ沿ヒ架設スル
トキハ三尺以上、其ノ上部ヲ架渉スルトキハ高壓電線ハ六尺以上、其ノ
他ハ三尺以上離隔セシムヘシ但シ危険ノ虞ナシト認ムル場所ハ警務部長
ノ認可ヲ受ケ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第五十二條 架空ノ電信線、電話線又ハ電氣信號線ト交叉若ハ接近シテ架
空電線ヲ建設スルトキハ三尺以上離隔スヘシ但シ電信線、電話線又ハ電
氣信號線管理者ノ承諾ヲ得タルトキ及引込線、共同引込線ニシテ工地上
已ムヲ得サルトキニ限リ二尺迄ニ短縮スルコトヲ得

第五十三條 他人ニ屬スル電燈、電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉シ若
ハ之ニ接近シテ架空電線ヲ建設スルトキハ三尺以上離隔スヘシ但シ工事
上已ム得サル場所ニシテ遞信局長官ノ認可ヲ受ケタルモノ又ハ同一ノ電
柱ニ架渉スルモノハ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第五十四條 架空ノ電信線、電話線、電氣信號線又ハ電燈、電力若ハ電氣
鐵道用電線ト其ノ上部ニ於テ交叉シ若ハ接近シテ架空電線ヲ建設セムト

スルトキハ其ノ前日迄ニ關係管理者ニ通知シ立會ヲ請求スヘシ其ノ既ニ架設シタルモノヲ修理若ハ撤去スル場合亦同シ

第五十五條 架空電線ノ分岐ハ其ノ電線ノ支持點ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ遞信局長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス

第五十六條 電柱ニハ番號ヲ記入スヘシ

高壓電線ヲ支持スル腕木ハ全部赤色ニ塗ルヘシ

第五十七條 坑内、隧道、橋梁等ニシテ人畜ニ危害ヲ及ホスノ虞アル場所ニ施設スル電氣工作物ニハ完全ナル危険豫防方法ヲ設ケ高壓電線ニ在リテハ特ニ之ヲ堅牢ナル管若ハ樋内ニ藏ムルカ又ハ他ノ適當ナル方法ヲ設クヘシ

第五十八條 電線ヲ藏メ若ハ之ヲ鎧裝スル爲用ウル金屬體ハ完全ニ大地ト電氣的接續ヲ爲スヘシ但シ電燈球取附用器具其ノ他之ニ類スル短少ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十九條 開閉器、自働遮斷器、抵抗器其ノ他導體ニ接スル器具ハ耐火

質絶縁性ノモノナルコトヲ要ス

第六十條 變壓器、直列式弧光電燈其ノ他高壓電氣ノ通スル機械、器具ハ容易ニ人ノ觸レサル様取附クヘシ

第六十一條 變壓器ノ一次線輪ト二次線輪トノ間ノ絶縁力ハ使用電壓ノ二倍ノ電壓ヲ以テ試験シ三十分時間以上之ニ耐フルモノナルコトヲ要ス但シ特別高壓電氣ニ使用スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十二條 屋外ニ設置スル變壓器ハ耐火耐水ノ函内ニ藏メ地表ヲ距ル十

四尺以上ニ於テ電柱ニ取附クヘシ
石造、煉瓦造及土藏造ノ建物ノ外部ニシテ人ノ觸ルル虞ナキ場所ニ限リ前項ノ規定ニ依リ取附クルコトヲ得

危険ノ虞ナシト認ムル場合ニハ警務部長ノ認可ヲ受ケ前二項以外ノ場所ニ取附クルコトヲ得

第六十三條 電路ハ之ヲ検査シ安全ト認ムルモノニ非サレハ之ニ送電スルコトヲ得ス

第六十四條 電氣事業者ハ送電中ノ架空電線ノ近傍ニ失火アルトキハ直ニ現場ニ技術者又ハ工夫ヲ派遣シ危険豫防ノ手續ヲ施シ其ノ旨出張ノ警察官ニ届出シムヘシ其ノ派遣員ハ警察官ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ退場スルコトヲ得ス

出火ノ場所ニ派遣ノ技術者又ハ工夫ニハ晝間ハ標旗、夜間ハ標燈ヲ携帯セシムヘシ

第六十五條 電氣事業者ハ送電中失火、暴風其ノ他非常ノ場合ニハ危険ノ虞アリト認ムル区域内ノ架空電線ニ對シテ速ニ其ノ送電ヲ遮斷スヘシ前項ニ依ル送電ヲ中止シタル区域内電線路ノ各要所ニハ晝間ハ標旗、夜間ハ標燈ヲ掲クヘシ

第六十六條 遞信局長官ハ必要ト認ムル場合ニ於テ電氣事業者ニ對シ特別ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ

第六十七條 特別高壓電氣工作物並地中電線路ノ施設制限ニ關シテハ本章ニ規定スルモノノ外別ニ定ムル所ニ依ル

第六十八條 本章ノ規定ニ依ル記録ハ五年間之ヲ保存スヘシ

第二節 電燈及電力

第六十九條 高壓電路ノ架空部分及絶縁電路ノ地中ニ施設シタル部分ノ大地トノ絶縁力ハ一百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ試験シ電線ノ長サ一里ニ付前者ニ在リテハ二萬五千「オーム」、後者ニ在リテハ使用電壓一百「ヴォルト」毎ニ六十萬「オーム」ヲ下ルヘカラス

低壓電路ノ大地トノ絶縁力ハ漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ一千分ノ一ヲ超過セシムヘカラス

土地ノ狀況ニ依リ危険又ハ障害ノ虞ナシト認ムル場合ニハ通信局長官ノ認可ヲ受ケ前二項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第一項及第二項ノ絶縁力ハ三月毎ニ一回之ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録スヘシ

第七十條 架空電線ヲ架空ノ電信線又ハ電氣信號線ト並行シテ建設スルトキ及直流式電燈線ヲ架空電話線ト並行シテ建設スルトキハ六尺以上、

架空ノ電力線若ハ交流式電燈線ヲ架空電話線ト竝行シテ建設スルトキハ十二尺以上ヲ離隔スヘシ但シ電信線、電話線又ハ電氣信號線管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ二尺迄ニ短縮スルコトヲ得

第七十一條 共同引込線ノ分岐シタル部分ハ三十間以上ト爲スコトヲ得ス且道路ヲ横斷セス人ノ容易ニ觸レサル様屋外ニ取附クヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ警務部長ノ認可ヲ受ケタルトキハ私道ニ限り横斷スルコトヲ得

第七十二條 屋内ニ施設スル電線ハ左ノ制限ニ依ルノ外絶縁物ヲ以テ被覆シ外物ニ觸ルルモ容易ニ損傷セサル様外装シタルモノナルコトヲ要ス但シ特別ノ場合ニ於テハ逓信局長官ノ認可ヲ受ケ裸線ヲ用ウルコトヲ得

- 一 點檢容易ナル場所ニ施設スル電線ハ第四十八條第二項ニ規定スル電線若ハ之ト同等以上ノモノナルコト
- 二 點檢容易ナラサル場所、點檢シ能ハサル場所、濕氣ノ充チ易キ場所又ハ工事上已ムヲ得ス人ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル電線ハ第七十三條ニ規定スル高等絶縁電線若ハ之ト同等以上ノモノナルコト但

シ點檢容易ナラサル場所ト雖二百五十「ヴォルト」以下ノ電壓ニ限り特別ノ方法ニ依リ施設スルトキハ第四十八條第二項ノ電線ヲ用ウルコトヲ得

前項ノ規定ハ發電所、變壓所及配電所内ニ之ヲ適用セス

第七十三條 前條ノ高等絶縁電線ハ護謨又ハ之ニ相當スル良好ナル絶縁物ヲ以テ被覆シ其ノ絶縁力ハ二十四時間以上水中ニ浸シ一百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ一分時間充電ノ後攝氏十五度ニ於テ一里ニ付一百「メガオーム」以上ナルコトヲ要ス

第七十四條 屋内ニ施設スル可撓紐線以外ノ電線ハ直徑五厘ノ圓形ノ積、可撓紐線ノ電線ハ直徑三厘八毛ノ圓形ノ積ヨリ小ナラサル切斷面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ強力ヲ有シ其ノ撚線ノ數ハ七本以上ナルコトヲ要ス但シ「パイプ、ペンダント」、「ブラケット」其ノ他之ニ類スルモノ内ニ藏ムル電線及逓信局長官ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條 屋内ニ施設スル電線ハ耐火耐水質ノ管若ハ樋内ニ藏メタル場

合ヲ除クノ外耐火耐水ノ碍子ヲ使用シ人ノ容易ニ觸レサル様取附クヘシ
點檢容易ナル乾燥ノ場所ニ在リテハ二百五十「ヴォルト」以下ノ電壓ニ使
用スル電線ニ限リ臺附木製「クリート」ヲ用ウルコトヲ得

點檢シ能ハサル場所ニ施設スル電線ニシテ金屬體ノ鍍被又ハ被覆ナキモ
ノハ金屬管内ニ納ムヘシ

第七十六條 電線ノ天井、壁及床等ヲ貫通スル部分又ハ屋内ニ於テ電信線
電話線、電氣信號線、水管、瓦斯管其ノ他ノ金屬體ニ接近スルカ若ハ相
互ニ交叉スル部分ハ之ヲ碍管内ニ藏メ又ハ特別ノ裝置ヲ爲スヘシ

第七十七條 屋内ニ施設スル電線相互間ノ絶緣力及電線ト大地トノ絶緣力
ハ孰レモ機械、器具及附屬物ヲ合セ漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ五千
分ノ一ヲ超過セシムヘカラス

前項ノ絶緣力ハ毎年一回以上之ヲ試驗シ其成績ヲ記錄スヘシ

第七十八條 第一條第一號ノ電氣事業者ハ故ナク電氣供給時間ヲ短縮シ又
ハ供給スヘキ一定電壓ヲシテ百分四以上ノ變動ヲ起サシムヘカラス

但シ技術上已ムヲ得サル場合ハ此限ニ在ラス

第七十九條 電氣事業者電線路ニ於テ障害アルコトヲ發見シタルトキハ其
ノ復舊ニ至ル迄送電ヲ中止スヘシ

第八十條 修繕其ノ他ノ原因ニ因リ一時間以上送電ヲ中止スルトキハ關
係需用者ニ通知シ急遽ノ場合ヲ除クノ外之ヲ豫告スヘシ

第八十一條 屋内ニ送電スル電壓ハ直流式ニ在リテハ五百「ヴォルト」交流
式ニ在リテハ二百五十「ヴォルト」ヲ超過スヘカラス但シ此制限ヲ超過シ
テ送電セムトスルトキハ工事方法ヲ具シ遞信局長官ニ認可ヲ申請スヘシ
前項ノ規定ハ發電所、變壓所及配電所ニ之ヲ適用セス

第三節 電氣鐵道

第八十二條 架空電車線ニハ直徑二分五厘ノ圓形ノ硬銅線若ハ之ト同等以
上ノ強力ヲ有スル電線ヲ用ウヘシ但シ危險ノ虞ナシト認ムル場合ニハ遞
信局長官ノ認可ヲ受ケ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第八十三條 歸線單線式電氣鐵道ノ軌條又ハ其ノ軌條ニ接續スル電線ハ軌條ノ中間若ハ外側一尺以內ニ敷

設スル部分ヲ除クノ外大地ヨリ絶縁スルコトヲ要ス但シ他ニ障害ヲ及ボスノ虞ナシト認ムル場合ニハ遞信局長官ノ認可ヲ受ケ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第八十四條 單線式電氣鐵道ヲ施設スル場合ニ於テ地中ニ金屬體ノ施設アルトキハ左ノ各號ニ依ルヘシ但シ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限リニ在ラス

- 一 歸線ノ絶縁セサル部分ハ地中施設ノ金屬體ヨリ四尺以上離隔スヘシ但シ工地上已ムヲ得サル場合ニ於テ遞信局長官ノ認可ヲ受ケ其ノ部分ト金屬體トノ間ニ不導體ノ離隔物ヲ設ケ電流ヲシテ地中四尺以上流通セシムルノ設備ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス
- 二 歸線ト其近傍ニ在ル金屬體トノ間ニ電流ノ通スル場合ニ於テ其ノ方向歸線ヨリ金屬體ニ向テ流ルルトキハ兩者間ノ電壓ノ差四、五「ヴォルト」金屬體ヨリ歸線ニ向テ流ルルトキハ兩者間ノ電壓ノ差一、五「ヴォルト」ヲ超過セシムヘカラス

- 三 歸線ハ發電機ノ消極ニ接続スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ通信局長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 - 四 軌鐵ハ電氣的完全ナル接続ヲ爲スヘシ
 - 五 軌鐵ノ外一平方寸ノ百分ノ四以上ノ切斷面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル補助線ヲ敷設スヘシ
 - 六 軌條ノ中間若ハ外側一尺以内ニ敷設シタル補助線ハ長サ一百尺以下毎ニ一平方寸ノ百分ノ三以上ノ切斷面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル他ノ方法ヲ以テ軌鐵ト接続スヘシ
 - 七 歸線ノ絶縁セサル部分中ニ生スル電位ノ差ハ七「ヴォルト」ヲ超過セシムヘカラス
- 第八十五條 前條ノ場合ニ於テハ歸線ノ絶縁セサル部分ニ起ルヘキ電位ノ差及第八十六條ニ規定スル兩地板ト發電機ノ接地シタル一極トノ接続ニ依リテ流ルル電流ヲ常ニ自動的ニ記録スルノ装置ヲ爲シ其ノ最大電位ノ差及最大電流ヲ毎日記録スヘシ

第八十六條 第八十四條ノ場合ニ於テハ發電機ノ一極ヲ接地シタル點ノ近傍ニ二箇ノ地板ヲ埋設シ且四「ヴォルト」以下ノ電壓ヲ用キテ兩地板間ニ二「アムペア」以上ノ電流ヲ發セシムル様之ヲ施設シ少クモ毎月一回以上之ヲ試験シ其成績ヲ記録スヘシ

前項ノ接地點ハ金屬體ヨリ六尺以上ヲ隔ツル所ニ施設シ埋設スヘキ地板ノ距離ハ十間以上ト爲スコトヲ要ス

前二項ニ適合スル地板ノ埋設地ヲ得難キ場合ニハ遞信局長官ノ認可ヲ受ケ前二項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第八十七條 電車線及之ニ接続スル電路中ノ絶縁シタル部分ノ絶縁力ハ其ノ漏洩電流鐵道一里ニ付一「アムペア」ノ三十分ノ一ヲ超過セサル様維持スヘシ若其ノ漏洩電流鐵道一里ニ付一「アムペア」ヲ超過シ二十四時間ヲ過クルモ之ヲ除去スルコト能ハサルトキハ直ニ電車ノ運轉ヲ中止スヘシ高壓電路ノ架空部分及絶縁電路ノ地中ニ施設シタル部分ノ大地トノ絶縁力ニ付テハ第六十九條第一項ノ規定ヲ準用ス

土地ノ狀況ニ依リ危險又ハ障害ノ虞ナシト認ムル場合ニハ遞信局長官ノ認可ヲ受ケ前二項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第八十八條 前號第一項ノ漏洩電流ハ毎日一回使用最大電壓ヲ用キ、前條

第二項ノ絶縁力ハ毎月一回之ヲ試験シ其成績ヲ記録スヘシ

第八十九條 歸線ト金屬體トノ電氣的接続ヲ爲スノ必要アル場合ニハ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タル後遞信局長官ニ認可ヲ申請スヘシ其ノ接続ハ最も良好ニシテ且容易ニ之ヲ點檢シ得ル様施設シ三月毎ニ一回以上之ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録スヘシ

第九十條 電車線ハ十町以内ノ區劃ニ分テ非常其ノ他道路ニ故障ノ起リタル場合ニ於テ容易ニ送電ヲ遮斷シ得ル様施設スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ遞信局長官ノ認可ヲ受ケ此制限ニ依ラサルコトヲ得

第九十一條 架空ノ電車線ニハ其ノ上部二尺以上ノ距離ニ於テ完全ニ接地シタル強力ナル金屬線ヲ架設シ若ハ他ノ適當ナル方法ヲ設ケ電信線、電話線又ハ電氣信號線トノ電氣的混觸ヨリ生スル危險ヲ豫防スヘシ但シ電

車線ノ上部ニ於テ之ト交叉若ハ接近シテ電信線、電話線又ハ電氣信號線ノ架設ナキ場所ニ在リテハ其ノ架設ニ至ル迄此ノ装置ヲ爲ササルコトヲ得

前項ノ金屬線ハ二條以上ニシテ其ノ相互間ノ距離ハ二尺五寸以下、其ノ電車線ノ外部ニ張出スル距離ハ一尺以上ト爲スヘシ尙單線式電氣鐵道ニ在リテハ其ノ金屬線ト大地トノ抵抗ハ電車線ト金屬線ト混觸ヲ生スルトキ直ニ電車線ニ送電スル電路ノ自働遮斷器ヲシテ働作セシムルモノナルコトヲ要ス

危険ノ虞ナシト認ムル場合ニハ遞信局長官ノ認可ヲ受ケ前二項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第九十二條 電車線ニ使用スル電氣ハ直流式低壓ナルコトヲ要ス但シ遞信局長官ノ認可ヲ受ケ高壓又ハ交流式ノ電氣ヲ使用スルコトヲ得

第九十三條 電車内ニ施設スル電線ニ付テハ第七十二條乃至第七十七條ノ規定ヲ準用ス

第九十四條 電車ニハ特別ノ場合ヲ除クノ外其前部及後部ニ制御機ヲ設クヘシ

第九十五條 電車ハ使用前及使用開始後少クモ一年毎ニ一回電動機其ノ他ノ各部ヲ検査シ同時ニ電氣上ノ試験ヲ爲シ其ノ成績ヲ記録スヘシ一年内ト雖重要ナル修繕ヲ施シタルトキ亦同シ

第九十六條 毎日運轉スル電車數及其ノ使用スル最大ノ電流及電壓ハ之ヲ記録スヘシ

第六章 監査、試験、改修及停止並許可、認可ノ失效及取消

第九十七條 遞信局長官ハ吏員ヲシテ電氣工作物若ハ事業經營ノ實況ヲ監査セシメ又ハ電氣事業者ニ命シ現ニ使用シ若ハ使用セムトスル機械、器具及物品ノ見本ヲ差出サシメ其ノ試験ヲ爲スコトアルヘシ
前項ノ監査ニ係ル試験費用又ハ見本ノ運搬ニ要スル費用並ニ試験ニ因リ生スル損害ハ電氣事業者ノ負擔トス

第九十八條 遞信局長官ハ電氣事業者ノ施設ニ係ル工作物ニシテ他ニ障害

ヲ及ホシ又ハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ其ノ改修、撤去又ハ使用ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ

第九十九條 左ノ場合ニハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

- 一 指定期間内ニ第十三條ノ工事施行認可ノ申請ヲ爲ササルトキ
- 二 指定期間内ニ第十三條ノ認可ヲ受ケタル工事ニ着手セサルトキ

第一百條 左ノ場合ニハ朝鮮總督ハ許可又ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

- 一 六月以上送電ヲ中止シタルトキ
- 二 指定期間内ニ第十六條又ハ第十九條ノ認可ヲ受ケタル工事ニ着手セサルトキ

三 第十三條、第十六條又ハ第十九條ノ認可ヲ受ケタル工事ヲ落成期限内ニ落成セシメサルトキ

第一百一條 主任技術者ノ曠缺スルコト四月以上ニ亙ルトキハ朝鮮總督ハ其ノ電氣事業ノ許可若ハ認可ヲ取消シ又ハ其ノ電氣工作物ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第一百二條 前二條ノ外電氣事業者本令ノ條項ニ違背シ又ハ本令ニ依リテ發スル命令ヲ遵守セサルトキハ朝鮮總督ハ電氣事業ノ許可若ハ認可ヲ取消シ又ハ其ノ電氣工作物ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第一百三條 電氣事業者使用認可證ノ下付ヲ受ケタル日ヨリ六月以内ニ其ノ電氣工作物ヲ使用セサルトキ又ハ六月以上其ノ使用ヲ中止スルトキ若ハ使用ヲ廢止シタルトキハ其ノ使用認可證ヲ下付シタル官廳ニ於テ其ノ電氣工作物ノ撤去ヲ命スルコトアルヘシ電氣事業者電氣事業ヲ廢止シ又電氣事業ノ許可若ハ認可ヲ取消サレタル場合亦同シ

第七章 罰 則

第一百四條 第十條又ハ第十二條ノ許可ヲ得ス又ハ第十三條、第十五條、第十六條、第十九條若ハ第二十一條ノ認可ヲ受ケスシテ其ノ工事ニ着手シタル者、第二十七條ノ許可ヲ受ケスシテ電氣事業ヲ讓渡若ハ讓受シタル者第三十條ノ許可若ハ認可ノ條件ニ違反シタル者竝第十八條、第二十二條、第二十三條、第二十八條、第七十八條若ハ第九十二條ノ規定ニ違

反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五條 左ニ掲クル者ハ科料ニ處ス

- 一 第十五條、第十六條、第二十條、第二十一條、第二十四條乃至第二十七條、第三十五條、第四十條又ハ第四十二條ノ届出ヲ爲ササル者

二 第三十條ノ書類又ハ圖面ノ提出ヲ爲ササル者

三 第八十九條ノ認可ヲ受ケスシテ同條規定ノ施設ヲ爲シタル者

四 第五十四條、第五十六條、第六十四條、第六十五條、第六十八條、

第七十一條、第七十九條乃至第八十一條又ハ第八十七條ノ規定ニ違反シタル者

五 第六十九條、第七十七條、第八十五條、第八十六條、第八十八條、

第八十九條、第九十五條又ハ第九十六條ノ記録ヲ爲ササル者

第八章 官廳施設電氣事業

第一百六條 官廳ニ於テ電氣事業ヲ施設セムトスルトキハ工事施行前第十

五條ニ準シ書類及圖面ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ其ノ書類及圖面中ノ事項ヲ變更スル場合亦同シ

第一百七條 前條ノ電氣事業ニ關スル電氣工作物落成シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ報告シ其ノ使用ノ承認ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第一百八條 第一百六條ノ電氣事業ニ關シテハ第二十四條、第二十五條、第四十三條乃至第六十五條、第六十七條乃至第七十七條、第八十一條乃至第九十六條ノ規定ヲ準用ス

附 則

第一百九條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一百十條 本令施行ノ際既ニ施設シ又ハ現ニ使用スル電氣工作物ハ本令ニ依リ其ノ施設使用ヲ許可又ハ認可セラレタルモノト看做ス

前項ノ電氣工作物中本令ノ規定ニ適合セサルモノアルトキハ電氣事業者ハ本令施行ノ日ヨリ三年内ニ本令ノ規定ニ適合セシメ朝鮮總督ニ届出ツ

ヘシ但シ三年ノ期間内ト雖第六十六條及第九十八條ニ依ル命令ノ效力ヲ妨ケス

第百十一條 前條ノ工作物ヲ有スル電氣事業者ハ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ其ノ電氣工作物ニ付第十四條第一項又ハ第二項ニ該當スル事項、改修ヲ要スル事項、改修ノ方法及期間ヲ詳記シ朝鮮總督ニ届出ツヘシ
朝鮮總督ハ前項ノ改修方法ヲ指定シ又ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第百十二條 本令施行前電氣事業ノ許可又ハ認可ヲ受ケタル者ニシテ未タ其ノ工事ニ着手セサルモノハ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ第十四條第一項又ハ第二項ニ該當スル事項ヲ詳記シ朝鮮總督ニ認可ヲ申請スヘシ其ノ工事ニ着手シ未タ落成セサルモノ亦同シ

● 輕便鐵道法(明治四三、四、二一)
法 律 五、七)

第一條 輕便鐵道ヲ敷設シ一般運送ノ用ニ供セムトスル者ハ左ノ書類

及圖面ヲ提出シ主務大臣ノ免許ヲ受クヘシ

一 起業目論見書

二 線路豫測圖

三 敷設費用ノ概算書

四 運送營業上ノ收支概算書

第二條 主務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ免許ニ條件ヲ附スルコトヲ得

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許ニ指定シタル期限内ニ線路實測圖、工事方法書及工費豫算書ヲ提出シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ會社ニ在リテハ定款ヲ添附スルコトヲ要ス

第四條 線路ハ之ヲ道路上ニ敷設スルコトヲ得ス但シ必要ナル場合ニ於テ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 私設鐵道法第九條第二項、第二十條、第四十一條、第四十二條、第五十三條乃至第五十五條及第八十條ノ規定ハ輕便鐵道ニ之ヲ準用

ス但シ第九條第二項ノ規定ハ私設鐵道株式會社ニ非ラサル會社カ兼業トシテ輕便鐵道ヲ敷設スル場合ニハ此ノ限ニ在ラス(明治三三、三、一六) 法律六四私設鐵道法參照

第六條 鐵道營業法ハ輕便鐵道ニ之ヲ準用ス(明治三三、三、一六) 法律六五鐵道營業法參照

第七條 明治四十二年法律第二十八號ハ輕便鐵道ノ抵當ニ之ヲ準用ス

第八條 本法ニ依リ運送ノ業ヲ爲ス者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ鐵道船舶郵便法ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十三年八月勅令第三百十四號ヲ以テ同年八月三日ヨリ施行)本法施行前免許又ハ特許ヲ受ケタル鐵道及軌道ニシテ將來本法ニ依ラシムヘキモノハ主務大臣之ヲ指定ス

● 輕便鐵道法施行規則(明治四三、八、二) 閣令一、二

第一條 輕便鐵道免許ノ申請書ハ主タル事務所ヲ設置セムトスル地ノ

地方長官ヲ經由シテ之ヲ提出スヘシ

第二條 地方長官ハ前條ノ申請書ニ意見書ヲ附シテ進達スヘシ
起業カ他ノ地方管内ニ依ルトキハ地方長官ハ關係地方長官ニ商議シ前項ノ意見書ヲ調製スヘシ

第三條 免許ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附シ申請者又ハ其ノ代理人記名捺印スヘシ但シ代理人ニ於テ記名捺印スルトキハ其ノ委任狀ヲ添附スヘシ

- 一 組合事業ニ在リテハ其ノ組合ニ關スル契約書謄本
- 二 會社ヲ設立セムトスル者ニ在リテハ假定款謄本
- 三 私設鐵道株式會社又ハ軌道會社ニ在ラサル會社ニ在リテハ其ノ登記謄本及定款謄本
- 四 府縣郡其ノ他ノ公共團體ニ在リテハ其ノ團體ノ決議書

第四條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 目的

- 二 鐵道ノ名稱及主タル事務所設置地
 - 三 事業資金ノ總額及其ノ出資ノ方法
 - 四 線路ノ起點終點及其ノ經過スヘキ地名但シ線路ノ一部ヲ道路上ニ敷設セムトスルモノハ其ノ區間ヲ道路ノ種別ニ區分シ之ヲ記載スヘシ
 - 五 鐵道ノ種類及軌間但シ電氣ヲ動力トスルモノハ原動力ノ種類、電氣ノ方式及電氣鐵道ノ方式ヲ記載シ他ヨリ電力ノ供給ヲ受クル者ハ供給者ノ住所氏名又ハ名稱ヲ併セテ記載スヘシ
 - 六 營業期間ヲ定メタルトキハ其ノ期間
- 第五條 線路豫測圖ハ左ノ二種トス
- 一 平面圖
 - 縮尺ハ一時三十鎖以上トシ線路ノ地勢並停車場ノ位置及名稱ヲ記載シ距離ハ半哩毎ニ記入スヘシ
 - 二 縱斷面圖
 - 縮尺ハ距離ヲ一時三十鎖以上高ヲ一時百五十呎以上トシ中心線地面

- ノ高低及施工基面ノ高低ヲ示シ隧道及橋梁ノ長、線路ノ勾配並停車場ノ位置及名稱ヲ記入スヘシ
- 第六條 敷設費用ノ概算書ハ第一號樣式ニ依リ其ノ總額及內譯各項毎ニ金額ヲ記載シ且線路ノ哩數ヲ掲クヘシ
- 第七條 運送營業上ノ收支概算書ハ第二號樣式ニ依リ收入及支出總額並其ノ內譯ヲ示シ且資金ニ對スル純益ノ割合ヲ記載スヘシ
- 第八條 輕便鐵道法第三條ノ規定ニ依ル工事施行ノ認可前ニ於テ起業目論見書ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ認可ヲ受クヘシ
- 第九條 免許申請中申請者其ノ氏名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ一週間內ニ其ノ旨届出ツヘシ
- 申請者中死亡シタル者アルトキハ他ノ申請者ヨリ既設ノ會社ニシテ解散シタルトキハ清算人ヨリ一週間內ニ其ノ旨届出ツヘシ
- 第十條 工事施行ノ認可申請書ハ地方長官ヲ經由シテ之ヲ提出スヘシ

起業カ他ノ地方管内ニ依ルトキハ其ノ關係部分ニ對スル書類圖面ノ謄本ヲ調製シ之ヲ關係地方長官ニ提出スヘシ
會社ヲ設立シタル場合ニ於テハ工事施行認可申請書ニハ會社ノ登記謄本ヲ添附スヘシ

第十一條 線路實測圖ハ左ノ二種トス

一 平面圖

縮尺一時三十鎖以上トシ線路ノ左右各十鎖以内ノ地勢ヲ明ニシ其ノ地附近ノ市街、村落、社寺、名勝、舊跡、公園、道路、山嶽、河川、港灣、要塞地等ヲ示シ府、縣、郡、市、町、村ノ境界及磁針方位ヲ記ス
ハシ線路中心線ノ距離ハ半哩毎ニ記シ曲線ノ半徑及交角、停車場、停留場聯絡所及信號所ノ名稱及哩程竝隧道橋梁ノ名稱及位置ヲ示スヘシ

二 縱斷面圖

縮尺ハ距離ヲ平面圖ト同一ニシテ高ハ一時百五十呎以上トシ中心線地面ノ高低、施工基面ノ高低及築堤ノ高竝切取ノ深ヲ十鎖毎ニ記シ隧道

及橋梁(溝橋ヲ含ム)ノ長、桁ノ種類及箇數、停車場、停留場、聯絡所及信號所ノ名稱及哩程竝國道其ノ他ノ重要ナル道路踏切ノ位置及線路ノ勾配ヲ詳記スヘシ

線路カ他ノ鐵道又ハ軌道ト交叉連絡又ハ接近スルトキハ該線路ノ前後各半哩間ノ中心線及高低ノ關係ヲ明ニスヘシ

線路カ市街地其ノ他重要ナル地點ヲ通過シ又ハ之ニ接近スルトキハ別ニ明細圖ヲ添附スヘシ

第十二條 工事方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 單線又ハ複線等ノ區別
- 二 軌間及軌道ノ間隔
- 三 建築定規及車輛定規 (圖面添附)
- 四 曲線ノ最小半徑
- 五 線路ノ最急勾配
- 六 施工基面ノ幅、築堤及切取斜面ノ勾配竝用地ノ幅 (圖面添附)

- 七 橋梁ノ臺脚及基礎ノ施工方法、桁及拱ノ材質構造寸法及所定最大活重並桁各部ノ最大應力(圖面添附)
- 八 隧道ノ各種地質ニ應スル施工斷面、坑門及排水渠ノ構造(圖面添附)
- 九 軌條及附屬品ノ材質形狀及重量、枕木ノ寸法及敷設間隔並轉轍器及轍叉ノ構造(圖面添附)
- 十 停車場ニ於ケル諸建造物及側線ノ配置(圖面添附)
- 十一 機關車ニ在リテハ
 - 輛數、形狀及主要寸法(圖面添附)
 - 汽笛ノ直徑及衝程、汽罐ノ傳熱面、爐面ノ大及實用最高汽壓、各車輪一對ノ負擔重量並水槽及燃料櫃ノ容量
 - 汽罐及其ノ附屬品、機械部、車臺、「ボギー」、車輪、車軸、擔彈機及制動、牽引、緩衝等各裝置ノ構造(圖面添附)
 - 客車貨車及其ノ他ノ車輛ニ在リテハ
 - 輛數、形狀及主要寸法(圖面添附)

定員、積載量、容積及自重

- 車體及附屬品、車臺、「ボギー」、車輛、車軸、擔彈機及制動、牽引、緩衝、點燈等各裝置ノ構造(圖面添附)
- 十二 他ノ鐵道又ハ軌道トノ交叉方法
 - 十三 其ノ他特種ノ設計ニ依リ施設スヘキ工事方法
 - 一 電動機ノ種類、箇數及馬力數
 - 二 發電所、變壓所、及配電所ノ位置並其ノ位置ヨリ軌道ニ達スル電線路ノ經過地名(圖面添附)
 - 三 發電機ノ種類、箇數「ワット」數及最大電壓
 - 四 變壓器、電動發電機、電流變式機、蓄電池及「ブスター」ノ種類、箇數及「ワット」數
 - 五 發電所、變壓所及配電所内電線接續法(圖面添附)
 - 六 電線路ノ種類及構造

七 電氣鐵道ノ方式、最大電壓及單線式ニ在リテハ軌條ノ接續法

八 自働車又ハ機關車内ニ裝置スル電動機ノ種類、箇數及馬力數、制御機ノ種類並其ノ他附屬器具機械ノ種類、箇數及其ノ裝置法

第十三條 工事施行ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テ停車場、橋梁、車輛及電氣ニ關スル設計ヲ確定スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ具シ大體ノ設計ヲ定メテ之ヲ認可ヲ受クルコトヲ得此場合ニ於テハ更ニ詳細ナル設計ヲ定メ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第十四條 工費豫算書ハ第三號様式ニ依リ調製スヘシ工費豫算總額ヲ變更スルトキハ前項ノ様式ニ依リ新舊ヲ對照シ理由ヲ附シ其ノ都度之レヲ届出ツヘシ

第十五條 工事施行ノ認可ヲ其ノ指定期限内ニ申請スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ具シ地方長官ヲ經由シテ期間ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得

第十六條 工事方法ヲ變更セムトスルトキハ新舊事項ヲ對照シ理由ヲ附シ認可ヲ受クヘシ

第十七條 認可ヲ經タル工事方法ノ範圍内ニ於テ左ノ變更ヲ爲シタルト

キハ理由ヲ具シ其ノ都度之ヲ届出ツヘシ

一 踏切道、道路及河川附替工事ノ伸縮増減

二 橋梁及隧道ノ伸縮増減

三 停車場ニ於ケル諸建造物及側線ノ伸縮増減

四 車輛ノ増加

五 車輛ノ改造

第十八條 線路ヲ變更セムトスルトキハ理由書及新舊對照圖面ヲ添附シ認可ヲ受クヘシ

左記各號ニ該當スルモノハ前項ノ書類圖面ヲ添附シ其ノ都度之ヲ届出ツヘシ

一 線路中心線ノ異動カ實測平面圖ニ記セル最初ノ位置ヨリ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ於テハ左右各半鎖其ノ他ニ於テハ各五鎖以内ニ在ルト

キ

二 施工基面高低ノ變更カ實測縱断面圖ニ記セル最初ノ位置ヨリ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ於テハ二呎其ノ他ニ於テハ六呎以内ニ在ルトキ線路ノ變更カ内務省直轄河川又ハ著名ノ建造物所在地ニ關係ヲ有スルトキハ前項ノ規定ニ該當スル場合ト雖認可ヲ受クルコトヲ要ス
 停車場、停留場、聯絡所及信號所ノ名稱ヲ變更シタルトキハ其ノ都度之ヲ届出ツヘシ
 停留場ヲ設置シ又ハ其ノ位置ヲ變更シタルトキ亦同シ
 第十九條 鐵道敷設ノ工事ニ着手シタルトキハ一週間内ニ之ヲ届出ツヘシ

第二十條 運輸開始後假設工事ヲ施行シタルトキハ理由、工事方法及使用期間ヲ記載シ圖面ヲ添附シ其都度之ヲ届出ツヘシ

第二十一條 鐵道ノ事故ハ之ヲ届出ツヘシ

第二十二條 免許ヲ受ケタル者ハ每營業年度末一月内ニ營業報告書ヲ提出スヘシ

第二十三條 免許ヲ受ケタル者ハ鐵道臺帳ヲ調製シ之ヲ備置クヘシ

第二十四條 免許ヲ受ケタル者ハ鐵道統計ヲ調製シ之ヲ提出スヘシ

第二十五條 會社ニ於テ商法ニ依ル登記ヲ爲シタルトキ又ハ定款ヲ變更シタルトキハ其ノ都度之ヲ届出ツヘシ

第二十六條 他ノ鐵道又ハ軌道ト連絡運輸又ハ直通運輸ヲ爲ストキハ左ノ事項ヲ記載シ契約書ノ謄本ヲ添附シ實施後一週間内ニ之ヲ届出ツヘシ

- 一 連帶驛名
- 二 旅客及荷物取扱方法
- 三 賃金割賦方法
- 四 供用停車場、倉庫等ニ關スル使用料及其ノ他ノ事項
- 五 線路及車輛ノ使用料並遲滯料等ニ關スル事項
- 六 運輸上責任負擔方法
- 七 運輸開始ノ年月日

第二十七條 輕便鐵道ノ抵當ノ取扱ニ關シテハ軌道抵當取扱規則第一條、

第三條、第五條及第六條ノ規定ヲ準用ス

輕便鐵道法施行規則附屬第一號樣式
何々間敷設費用概算書

何鐵道豫測線

哩 鎖 節

項	數量	平均價	金高	備考
測量及監督費	段坪 延長 呎 ／ 哩 ／ 箇 所			
用地費				
土工費				
橋梁費				
隧道費				
軌道費				
電車路費				
停車場費				
車輛費				
諸建物費				
.....				
.....				
總係費			敷設費
合計		
一哩ニ付	
				總計

輕便鐵道法施行規則

三一

第二十八條 免許失效シタルトキハ遲滯ナク地方長官ヲ經由シ免許狀ヲ返
 納スヘシ

附 則

本令ハ輕便鐵道法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三一〇

輕便鐵道法施行規

何鐵道豫測線

輕便鐵道法施行規則

何々鐵道收

線 路	建設費		貨物噸哩		旅客人哩		貨物收入	
	合計	每一哩	合計	每一哩	合計	每一哩	合計	每一哩

則附屬第二號樣式

支概算書

旅客收入		營業費		鐵道純益		摘 要
合計	每一哩	合計	每一哩	合計	資本二對合 スル割合	

輕便鐵道法施行規

何鐵道實測線

何々間工

哩 鎖

輕便鐵道法施行規則

項	目	數量	平均 單價	金高	合計
		哩	圓	圓	圓
測量及監督費	線路用地	段			
用地費	停車場用地	段			
	發電所用地	段			
土工費	切築	立坪			
	取堤	哩			
橋梁費	何川橋梁	延長			
	何川何外箇所	哩			
	何溝	箇所			
隧道費	何々隧道	延長			
	何々外何箇所	哩			
軌道費	軌條及附屬品	哩			
	枕木	立坪			
	砂敷	哩			
	設	哩			
電線路費	饋送電	哩			
	電車	哩			
	線線柱	哩			
				送高	

三一五

則附屬第三號樣式

費豫算書

節

項	目	數量	平均 單價	金高	合計
			圓	圓	圓
停車場費	何々驛			越高	
	何驛外何箇所				
車輛費	機關車	輛			
	客貨車	輛			
諸建物費	發電所				
	建發電機				
				
				
				
				
總係費	合一哩二				

三一四

●輕便鐵道法第四條但書ニ依ル線路敷

設ノ許可手續(明治四三、八、二
內令二二七)

- 第一條 輕便鐵道法第四條但書ニ依リ線路敷設ノ許可ヲ得ントスル者ハ道路上ニ敷設スル必要ナル事由ヲ詳記シ書類及圖面ヲ具シ敷設地ノ地方長官ヲ經由シテ內務大臣ニ申請スヘシ
 - 一 起業目論見書
 - 二 工事方法概略書
 - 三 全線路ノ豫測平面圖及道路上ニ敷設ス可キ線路ノ豫測圖竝説明書
 - 四 道路上ニ於ケル敷設費ノ概算書
- 第二條 全線路ノ豫測平面圖ハ縮尺一吋三十鎖(二萬分ノ一)ヲ以テ代用スルコトヲ得トシ沿線ノ地勢市街村落附近ノ道路及既設又ハ未設ノ鐵道又ハ軌道及其ノ名稱ヲ記スヘシ

第三條 道路上ニ敷設ス可キ線路ノ豫測圖ハ左ノ二種トス

- 一 豫測平面圖

縮尺ハ五千分ノ一トシ鐵道ノ中心線ハ赤色ヲ以テ之ヲ彩リ鐵道ヲ敷設セントスル國道縣道里道ノ分界竝其ノ地名及沿線ノ地勢市街村落附近ノ道路又ハ既設若ハ未設ノ鐵道又ハ軌道及其ノ名稱等ヲ明ニシ距離ハ百間毎ニ記入ス可シ
- 二 豫測縱斷面圖

縮尺ハ平面圖ト同一ニシ高ハ縮尺五百分ノ一トシ鐵道中心線路面ノ高低(黑色)鐵道面ノ高低(赤色)及隧道橋梁ノ長鐵道ノ勾配竝其ノ距離ヲ記入スヘシ

第四條 線路豫測圖ノ説明書ニハ沿線ノ地勢及線路撰定ノ理由ヲ詳記シ附近ノ道路、市街、村落、池沼、河川、港灣、社寺、公園、名所、舊蹟、學校、病院、兵營、工場等重ナルモノトノ關係ヲ説明ス可シ

第五條 道路上ニ於ケル敷設費ノ概算書ニハ其ノ總額及用地、橋梁、

輕便鐵道法第四條但書ニ依ル線路敷設ノ許可手續

溝渠、伏樋、隧道、軌道、土工、雜費其ノ他各種ノ項目ニ區別シ其ノ金額ヲ記載スヘシ

第六條 本則ニ規定シタルモノ、外必要ナル事項ハ許可ノ際命令書ヲ以テ之ヲ定ム

● 輕便鐵道補助法 (明治四四、三、二三) 法律一七

第一條 輕便鐵道ニ於テ每營業年度ニ於ケル益金カ建設費ニ對シ一年五分ノ割合ニ達セサルトキハ政府ハ該鐵道營業開始ノ日ヨリ五年ヲ限り其ノ不足額ヲ補給スルコトヲ得但シ營業收入ノ營業費ニ不足スル金額ニ對シテハ之ヲ補給スルコトヲ得ス

第二條 補助ヲ爲スヘキ輕便鐵道ハ二呎六吋以上ノ軌間ヲ有スルモノニ限ル

第三條 第一條ノ補助金ノ年額ハ明治四十四年度ニ於テハ二十五萬圓

爾後每年度二十五萬圓ヲ累加シ百二十五萬圓ニ至リテ止ム

第四條 輕便鐵道ハ每營業年度ニ於テ其ノ益金カ建設費ニ對シ一年八分ノ割合ヲ超過スルニ至リタルトキハ其ノ超過額ノ二分ノ一ヲ以テ政府ノ補給シタル總額ニ達スル迄之カ償還ヲ爲スヘシ

第五條 第一條及第四條ノ建設費、營業費、營業收入及益金ニ關シテハ命令ヲ以テ其ノ算出方法ヲ定ムルコトヲ得

第六條 輕便鐵道ノ管理者カ法令若ハ法令ニ基キテ發スル命令、免許、若ハ補助ニ附シタル條件ニ違反シ又ハ公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ政府ハ其ノ補助ヲ停止又ハ廢止スルコトヲ得

第七條 詐欺ノ所爲ヲ以テ補助金ヲ受ケタルトキハ其法定ノ利息ヲ附シテ之ヲ償還セシム

前項ノ償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十四年勅令第二百九十一號ヲ以テ同四十五年一月一日ヨリ施行）
本法施行ノ日ヨリ十年ヲ經過シタルトキハ新ニ補助ヲ爲スコトヲ得ス

● 輕便鐵道補助法施行規則（明治四四、一二、二五）
閣令 一、二、四

- 第一條 輕便鐵道補助法ニ條リ補助ヲ受ケムトスル者ハ左ニ掲クル事項ヲ具シ内閣總理大臣ニ申請スヘシ
 - 一 補助ヲ必要トスル事由
 - 二 公共團體其ノ他ノ者ヨリ補助ヲ受クルトキハ其金額又ハ物件ノ種類數量及見積價格並其ノ方法及條件
 - 三 營業開始後五年間ニ於ケル運輸ノ數量、收入支出、益金及其ノ算出ノ基礎（第一號乃至第六號様式）
 - 四 前號期間内ニ於テ補助ヲ受ケムトスル金額及其ノ算出ノ基礎（第七

號及第八號様式）

- 輕便鐵道法施行規則第一條及第二條ノ規定ハ前項ノ申請ニ之ヲ準用ス
- 第二條 輕便鐵道補助法第一條ノ建設費ハ當該營業年度開始前ノ決算額ノ全額及當該營業年度ノ決算額ノ半額トス
 - 營業年度ノ中間ニ於テ營業ヲ開始シ又ハ補助終了スルトキハ營業開始又ハ補助終了ノ日ヲ營業年度開始又ハ營業年度終了ノ日ト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス
- 第三條 建設費ニ算入スヘキ費用ニシテ所屬區間ノ明ナラサルモノハ關係各區間ニ於ケル當該營業年度ノ建設費ノ割合ニ依リテ之ヲ分割ス
- 第四條 建設工事施行中ハ三月毎ニ工程及建設費ノ支出額ヲ報告スヘシ（第九號及第十號様式）
- 第五條 輕便鐵道補助法第四條ノ償還ヲ終ル迄ハ營業年度毎ニ建設費決算ノ認可ヲ受クヘシ營業開始ノ日及補助終了ノ日ニ於ケル建設費ノ決算ニ付亦同シ

建設費決算ノ認可申請書ニハ豫算決算ノ差引對照表ヲ添附スヘシ（第十
一號乃至第十九號様式）

補助ヲ受クル線路カ區間ヲ分ツ場合ニ於テハ建設費ハ區間毎ニ之ヲ計算
スヘシ

第六條 社債及借入金ノ支出ハ固有資金ノ支出ノ後ニ之ヲ爲シタルモ
ノト看做ス

第七條 建設及營業ニ相互關聯スル費用ハ當該營業年度ニ於ケル建設
費及營業費ノ割合ニ依リテ之ヲ分割ス

第八條 社債及借入金ノ利息ハ營業ニ使用シタル金額ニ對スルモノヲ
除クノ外之ヲ營業費ニ算入セス營業收入ヲ以テ新設及改良ノ工事費ヲ支
辨シタルトキ亦同シ

第九條 公共團體其ノ他ノ者ヨリ受クル補助金ハ建設費ニ充當スヘキ
モノヲ除クノ外之ヲ營業收入トス但シ特別ノ事由ニ因リ認可ヲ受ケタル
場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

建設費ニ充當スヘキ補助金ヨリ支出シタルモノハ之ヲ建設費ニ算入セス

第十條 補助ヲ受クル區間及補助ヲ受ケサル區間又ハ一營業年度内ニ
於ケル補助ヲ受クル期間及補助ヲ受ケサル期間ノ營業費及營業收入ハ開
業全線ノ營業費及營業收入ノ當該營業年度決算額ヲ各區間又ハ各期間ニ
於ケル列車走行哩ノ割合ニ依リテ之ヲ分割ス

第十一條 一年未滿ノ期間ヲ以テ營業年度トスル場合ニ於テハ輕便鐵道
補助法第一條ノ益金ハ一年ヲ通シテ算出シタル額ニ依リテ之ヲ定ム但シ營
業年度ノ中間ニ於テ營業ヲ開始スルトキハ當該營業年度開始ノ日ヨリ一
年内ニ於テ營業ヲ爲シタル期間ヲ通シテ算出シタル額ニ依ル

營業年度ノ中間ニ於テ補助終了スルトキハ前項ノ規定ヲ適用セス
第十二條 法定準備金ノ積立ヲ爲ス場合ニ於テハ益金ノ二十分ノ一ハ之
ヲ益金ニ算入セス

第十三條 輕便鐵道補助法第二條ノ建設費ニ對スル益金ノ割合ハ一年ノ
日數ヲ以テ補助日數ヲ除シタルモノヲ建設費ニ乗シタル額ト當該補助期

間ノ益金トノ割合ニ依リテ之ヲ定ム

第十四條 第二條、第十條、第十一條第一項及前條ノ規定ハ輕便鐵道補助法第四條ノ規定ニ依リ償還ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 輕便鐵道補助法第四條ノ償還ヲ終ル迄ハ營業年度毎ニ營業費營業收入及益金計算ノ認可ヲ受クヘシ(第二十號乃至第二十八號様式)

第十六條 輕便鐵道カ他ノ業務ヲ營ム場合ニ於テハ相互ニ關聯スル興業費營業費又ハ營業收入ハ當該營業年度ニ於ケル興業費營業費又ハ營業收入ノ割合ニ依リテ之ヲ分割ス

前項ノ場合ニ於テ興業及營業ニ相互關聯スル費用ハ當該營業年度ニ於ケル興業費及營業費ノ割合ニ依リテ之ヲ分割ス

附 則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別表省略)

●軌道條例(明治二三、八、二三) 法律七二

第一條 一般運輸交通ノ便ニ供スル馬車鐵道及其他之ニ準スヘキ軌道

ハ起業者ニ於テ内務大臣ノ特許ヲ受ケ之ヲ公共道路上ニ布設スルコトヲ得

第二條 馬車鐵道及其他之ニ準スヘキ軌道敷設ノ爲メ起業者ノ負擔ヲ

以テ在來ノ道路ヲ取擴メ又ハ更正シ若クハ新ニ軌道敷ヲ設クルノ必要アルトキハ之ニ要スル土地ハ起業者ニ於テ土地收用法ノ規定ニ依リ内閣ノ認定ヲ經テ之ヲ收用スルコトヲ得

第三條 在來ノ道路ヲ取擴メ又ハ更正シタル部分及新設シタル軌道敷ハ俱ニ道路敷ニ編入ス

●軌道條例取扱方(明治三四、一〇、二五) (四一、一〇) 遞訓一、及(內訓一、一〇、二五) (四三、七) 內訓九改正

明治二十三年法律第七十一號軌道條例取扱方自今左ノ通心得ヘシ但明治二十三年内務省訓第六六二號及明治二十七年訓第六六四號訓令ハ之ヲ廢ス

第一條 願書ニハ起業目論見書、工事方法概略書並圖面、線路豫測圖（縮尺二萬分ノ一以上）工費概算書及營業上ノ收支概算書ヲ添付セシムルコトヲ要ス

第二條 地方長官ハ軌道ヲ敷設スヘキ公共道路ノ維持費ヲ負擔スル府縣郡市町村其ノ他公共團體ノ議會若ハ之ニ準スヘキ議會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス但軌道力單ニ道路ヲ横斷スルニ止マルトキハ此ノ限ニ在ラス府縣制又ハ郡制實施ノ地方ニ於テ府縣郡會招集ノ時期ニアラサル場合ニ出願アリタルトキハ其ノ府縣郡參事會ノ意見ヲ以テ前項府縣郡會ノ意見ニ代フルコトヲ得

第三條 地方長官ハ意見書ヲ作り別記命令書案雛形ニ準シ土地ノ狀況ヲ斟酌シテ命令書案ヲ調製シ之ニ添付スヘシ電氣以外ノ原動力ノ場合ニ於テハ其ノ原動力ノ種類ニ應シ命令書案ヲ調製スルコトヲ要ス
命令書案第一條ニ記載スヘキ軌道敷設線路ノ發着點ニハ市區町村字名並

地番若ハ地先地番ヲ掲記シ其ノ經過線路ハ成ルヘク細別シ國縣里道若ハ新設軌道敷ノ種類ニ應シ經過線路ノ順序ニ從テ列記スヘシ

第四條 命令書案雛形第五條第一項第四號及第五號中ニ規定セル幅員ハ最少限ヲ示セルモノナレハ命令書案調製ニ當リテ地方長官ハ交通上ノ關係ハ勿論其他軌道敷設ノ爲生スヘキ利害ヲ比較シテ周到ナル審査ヲ爲シ單ニ現在ノ利害ノミナラス將來交通上ノ得失ヲ斟酌シ適當ナル制限ヲ設クルコトヲ要ス

第五條 命令書案雛形第五條第一項第十號ノ屈曲ノ半徑ニ關スル規程ハ車體ノ構造ニ依リ相當變更スルヲ妨ケス

第六條 保證金ハ工事著手前ニ差出サシムヘシ

第七條 車輛進行ノ速度ハ一時間八哩以内ニ於テ命令書案中ニ相當制限スルコトヲ妨ケス

第八條 地方長官ニ於テ交通ノ狀況及車體ノ構造ニヨリテハ二車ニ限リ聯結進行セシムルモ支障ナシト認ムルトキハ命令書案雛形第十四條ヲ

變更スルコトヲ得但此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ副申スヘシ

第九條 地方長官ハ運輸開始許可ノ申請アリタルトキハ工事カ工事方法書ニ違反セルコトナキヤ又ハ軌道ノ設備カ運輸ヲ開始スルニ不適當ナルコトナキヤ否ヤ嚴正検査スヘシ

第十條 特許狀並命令書ヲ交付シタル片ハ請書ヲ徴シ之ヲ進達スヘシ
特許狀並命令書交付ノ時日ハ之ヲ報告スヘシ

(別記)

命令書案雛形

- 第一條 今般何某ニ對シ特許シタル軌道ノ線路ハ左ノ如シ
 - 一 ヨリ 二至ル國道
 - 一 ヨリ 二至ル縣道
 - 一 ヨリ 二至ル里道
 - 一 ヨリ 二至ル新設軌道敷
- 第二條 營業年限ハ明治何年何月何日迄トス

第三條 原動力ノ方式ハ何々トス

第四條 電氣ニ關スル事項ニ付テハ明治三十五年遞信省令第三十六號電氣事業取締規則ノ規定ニ依ルヘシ但同規則第十條ノ出願ハ此ノ命令書交付ノ日ヨリ六箇月内ニ之ヲ爲スヘシ

第五條 特許ヲ受ケタル者ハ前條但書ニ依リ出願ヲ爲シ其ノ許可ヲ得タル日ヨリ六箇月内ニ左ノ各號ニ準據シ線路實測圖(平面圖ハ縮尺二千分ノ一、縱斷面圖ハ縱二百分ノ一、横二千ノ一、横斷面圖ハ二百分ノ一トス)工事方法書、圖面及工費豫算書ヲ調製シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ又同シ

- 一 軌間ハ内法何尺何寸トス
- 二 軌條ハ何々ヲ用井其重量ハ一碼ニ付何封度以上トス
- 三 軌條間ノ全部及其左右各一尺五寸通ハ木石砂利其ノ他適當ノ材料ヲ敷キ鐵軌面ト道路面ト高低ナカラシムヘシ
- 四 軌道ヲ敷設スル道路ハ左ノ幅員ヲ有スルコトヲ要ス

軌道條例取扱方

單線軌道ノ場合ニ於テハ兩側人家連檐ノ場所又ハ連檐スヘキ場所ハ四間以上其ノ他ノ場所ハ三間以上複線軌道ノ場合ニ於テハ兩側人家連檐ノ場所又ハ連檐スヘキ場所ハ五間以上其ノ他ハ四間以上

五 軌道ハ兩側人家連檐ノ場所又ハ連檐スヘキ場所ニ於テハ道路ノ中央ニ之ヲ敷設スヘシ但車體外一側ニ各二間以上ノ幅員ヲ存スルコト能ハサルトキハ其ノ一側ニ二間以上他ノ一側ニ三尺以上ノ幅員ヲ存スル點迄一方ニ偏シテ之ヲ敷設スルコトヲ得

前項以外ノ場所ニ於テハ道路ノ一方ニ偏シ路端ヨリ車體外各三尺以上ノ地ヲ餘シテ軌道ヲ敷設スヘシ但國道及縣道ニ在テハ車體外ノ一側ニ二間以上ノ幅員ヲ存スルコトヲ要ス

道路ノ屈折部ノ内角ノ前後ニ於テ車體外各二間以上ノ幅員ヲ存スルトキハ其ノ内角ニ於テ少クトモ二間ノ幅員ヲ存スルヲ要ス其ノ他ノ場合ニ於テハ内角ニ於ケル幅員ノ最小限ハ三尺ニシテ其ノ外角ノ側方ニハ二間以上ノ幅員ヲ存スルヲ要ス

井戸、並木、電柱、街燈、郵便函其ノ他道路上ノ建設物ヨリ其ノ側ノ路端迄ノ距離、溝渠敷地及人道、車馬道ヲ區別セル道路ニ在リテハ其ノ人道ハ前三項ノ幅員ニ算入セス

六 道路ノ一方ヨリ他ノ一方ニ軌道線ヲ移ス箇所ハ木又ハ石ヲ用キテ踏切ヲ設クヘシ

七 軌道カ道路ヲ横斷スル箇所亦前號ニ同シ

八 橋梁ノ構造、幅員及耐力ハ地方長官ノ指定スル所ニ依ルヘシ

九 軌道敷設ノ爲ニ生スル道路面及軌道内ニ於ケル雨水ノ滯留ニ付テハ完全ナル排除ノ方法ヲ設クヘシ

十 勾配ハ二十五分ノ一ヲ超ユヘカラス

十一 屈曲ノ半徑ハ三十六尺ヲ以テ最小限トス

十二 車輛ニハ相當ノ避難器、制動器、驗速器及信號器ヲ裝置スヘシ

十三 地下ニ埋設シタル公衆通信用ノ電信又ハ電話線路、水管、瓦斯管其ノ他公共用ノ地下工作物ト交叉若クハ接近シテ軌道ヲ敷設スルト

キハ其ノ線路又ハ工作物ヲ毀損セサル爲適當ノ豫防装置ヲ爲スヘシ
十四 各種ノ人孔マンホール、制水瓣蓋等ニ接近シテ軌道ヲ敷設スルトキハ操業上

障害ヲ與ヘサル爲適當ノ距離ヲ保タシムヘシ

十五 特許ヲ受ケタル者ニ於テ新設スヘキ軌道敷ハ車體外左右各三尺以
上ノ幅員ヲ有スルコトヲ要ス

項第三號乃至第六號及第九號ハ新設軌道敷ニ之ヲ適用セス

第六 條 特許ヲ受ケタル者ハ前條ノ認可ヲ得タル日ヨリ六箇月内ニ前
工事ニ着手シ着手ノ日ヨリ何年内ニ竣工スヘシ但天災其ノ他正當ノ事由
ニ因リテ本條ノ期間内工事ニ着手シ又ハ竣工スルコト能ハサルトキハ相
當ノ延期ヲ與フルコトアルヘシ

第七 條 特許ヲ受ケタル者ニ於テ擴築シタル道路及改築シタル橋梁ハ
竣工ト同時ニ無償ニテ國又ハ公共團體ノ有ニ歸ス

第八 條 軌道敷設ノ爲道路ノ地表又ハ地下ニ於ケル建設物ノ移轉其ノ
他ノ工事ヲ要スルトキハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ施行シ又ハ其費用

ヲ負擔スヘシ

第九 條 工事ノ全部又ハ一部竣工シ運輸ヲ開始セントスルトキハ特許
ヲ受ケタル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

工事カ工事方法書ニ違反スルモノト認ムルトキハ地方長官ハ其ノ改築又
ハ停止ヲ命スヘシ

第十 條 乗客ノ定員、荷物ノ制限、乗車賃、運送賃及發車並營業時間
ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキハ亦同シ

第十一 條 電氣ニ關スル技術員、車掌及運轉手ノ資格及採用ノ方法ハ特
許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スル
トキハ亦同シ

第十二 條 車輛ハ一輛毎ニ地方長官ノ検査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用
スルコトヲ得ス

第十三 條 進行ノ速度ハ一時間八哩ヲ超過セシムルコトヲ得ス

第十四 條 車輛ハ二車又ハ二車以上ヲ聯結シテ進行セシムルコトヲ得ス

進行中ハ各車ノ間ニ相當ノ距離ヲ保タシムヘシ
日出前日没後ハ五町以上ノ距離ニ於テ容易ニ認め得ヘキ燈火ヲ車輛ノ前
後ニ點スヘシ

第十五條 乗客ノ昇降ノ爲ニスルノ外故ナク道路上ニ停車セシムルコト
ヲ得ス但乗客昇降ノ場合ト雖モ道路ノ交叉部ニ於テ停車セシムルコトヲ
得ス

第十六條 地方長官ノ指定シタル場所ニハ特ニ信號人ヲ置キ其ノ場所ニ
於テハ進行ノ速度ハ一時間五哩ヲ超過セシムルコトヲ得ス

第十七條 左ニ掲ケタル箇所ハ地方長官ノ命スル所ニ從ヒ特許ヲ受ケタ
ル者ニ於テ其ノ改築、修繕、掃除、撒水及除雪ヲ爲シ又ハ其ノ費用ヲ負
擔スヘシ

- 一 道路及横切下水ハ軌條間ノ全部及其ノ左右各二尺通
- 二 橋梁ノ改築又ハ修繕ハ前號ニ定メタル幅員ト橋梁ノ幅員トノ比例ヲ
以テ標準トシ其ノ橋梁ノ改築又ハ修繕費ノ全部ニ對シ特許ヲ受ケタ

ル者ニ於テ負擔スヘキ費用ノ歩合ヲ定ム橋梁ノ掃除、撒水及除雪ハ
前號ニ依ルモノトス

特許ヲ受ケタル者ノ軌道ト他ノ軌道ト交叉スル場合ニ於テハ其ノ交
叉面ニ係ル前項ノ義務ハ關係者ノ分擔トス

第十八條 車輛ハ常ニ清潔ニ保持シ其ノ修繕ヲ怠ルヘカラス

第十九條 地方長官ハ何時ニテモ軌道、車輛其ノ他工作物ヲ監督シ危険
ナリト認ムルトキハ改築修補ヲ命シ其ノ命ヲ執行シ終ルマテ其ノ使用又
ハ營業ヲ停止スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ危険切迫ナリト認ムルトキハ地方長官ハ自ラ其ノ改築
修補ヲ爲スコトアルヘシ

第二十條 地方長官ハ何時ニテモ營業ニ關スル實況ヲ監督シ此命令書ノ
條項又ハ此命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ違反セル事實アルトキハ之ヲ
督責シ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ更正スル迄營業ヲ停止スルコトアル
ヘシ

第二十一條 特許ヲ受ケタル者ハ内務大臣及遞信大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ一部ノ營業ヲ廢止スルコトヲ得ス

第二十二條 特許ヲ受ケタル者ハ地方長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業ヲ休止スルコトヲ得ス

第二十三條 内務大臣及遞信大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ何時ニモ原動力ノ變更、其ノ方式、設備、線路若ハ敷設順序ノ變更又ハ交通上必要ナル線路ノ新設若クハ延長又ハ道路ノ擴築又ハ複線ノ敷設若ハ撤去又ハ一部ノ線路ノ廢止ヲ命スルコトアルヘシ

第二十四條 地方長官ハ運賃、乗客ノ定員、荷物ノ制限、運送賃及發車並營業時間ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第二十五條 道路、橋梁、水道其ノ他ノ公共事業ノ爲必要アルトキハ地方長官ハ軌道其ノ他ノ工作物ノ改築若ハ一時撤去ヲ命シ又ハ一時車輛ノ運轉ヲ停止スルコトアルヘシ

交通上危險ノ虞アルトキハ地方長官ハ其必要ノ部分ニ限り一時車輛ノ運

轉ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十六條 軌道ヲ交叉シ若ハ之ニ接續シ又ハ之ニ接近シテ道路、橋梁、運河、鐵道又ハ他ノ軌道ヲ設クルコトアルモ特許ヲ受ケタルモノハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十七條 道路ニ敷設セル工作物其ノ他營業上必要ナル物件ハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ地方長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ義務履行ノ擔保ト爲スコトヲ得ス

第二十八條 内務大臣及遞信大臣又ハ地方長官ハ公益上必要ト認ムル事項ヲ特許ヲ受ケタル者ニ命スルコトアルヘシ

内務大臣及遞信大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ此ノ命令書ノ條項ヲ變更スルコトアルヘシ

第二十九條 將來定メラル、所ノ法令ノ結果トシテ此ノ命令書ノ條項ニ變更ヲ來スコトアルモ特許ヲ受ケタル者ハ之ヲ距ムコトヲ得ス

第三十條 特許ヲ受ケタル者ハ半年毎ニ營業ノ報告書ヲ調製シ三十日

内ニ地方長官ニ差出スヘシ地方長官ハ何時ニテモ營業ニ關スル帳簿、書類等ヲ檢閲スルコトアルヘシ

第三十一條 國又ハ公共團體ニ於テ公益ノ爲メ軌道其ノ他營業上必要ナル物件ノ全部若ハ一部ノ専用又ハ買收ヲ爲サムトスルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但之ニ對シ補償ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ物件ノ範圍ニ付爭アルトキハ内務大臣及遞信大臣之ヲ定ム

第三十二條 前條全部専用ノ場合ニ於テ月ヲ以テ専用期間ヲ算スルトキハ前年ニ於ケル平均收入月額又ハ前年ノ相當月ノ收入額ヲ標準トシ補償金額ヲ定メ日ヲ以テ専用期間ヲ算スルトキハ前月ニ於ケル平均收入日額又ハ前年若ハ前月ノ相當日ノ收入額ヲ標準トシ補償金額ヲ定ム但其ノ選擇ハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

前條一部専用ノ場合ニ於テハ特許ヲ受ケタル者ノ選擇スル所ニ從ヒ全部ノ延長ニ對スル専用部分ノ延長ノ比例ヲ以テ全部専用ノ場合ニ於ケル補償金額ニ乘シ又ハ前項ト同一ノ方法ニ依リ其専用部分ニ對スル補償金額

ヲ定ム

前條全部買收ノ場合ニ於テハ年率七分ヲ以テ前五箇年間ノ純益平均年額ヲ除シ補償金額ヲ定ム但其ノ地方ニ於ケル金利年率ニ著シキ變更ヲ來シタルトキハ内務大臣及遞信大臣ハ本項ノ年率ヲ變更スルコトアルヘシ

役員賞與ノ性質ヲ有スル支出ハ前項純益金ノ内ニ算入ス

前條一部買收ノ場合ニ於テハ前三項ノ規定ヲ準用シテ補償金額ヲ定ム

開業ノ後本條ニ規定シタル時日ヲ經過セサルトキハ既往營業時日ヲ標準トシテ平均額ヲ算出ス

第三十三條 他ノ軌道營業者ニ於テ内務大臣及遞信大臣ノ許可ヲ得テ特許ヲ受ケタル者ノ軌道其ノ他營業上必要ナル物件ノ一部ヲ共同使用セントスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但其ノ共同使用ノ條件ハ協議ノ上之ヲ定メ協議調ハサルトキハ内務大臣及遞信大臣之ヲ定ム

第三十四條 左ノ場合ニ於テハ特許ハ其ノ效力ヲ失フ

一 第四條但書ノ出願ヲ爲ササルトキ又ハ其ノ許可ヲ得サルトキ若ハ之

ヲ取消サレタルトキ

三四〇

- 二 第五條ノ期間内ニ認可ヲ申請セサルトキ又ハ其ノ認可ヲ得サルトキ
 - 三 第六條ノ期間内ニ工事ニ著手セサルトキ
 - 四 第四十二條第一項ノ保證金ヲ差出ササルトキ
 - 五 明治三十五年遞信省令第三十六號電氣事業取締規則第十三條ニ依ル
工事施行ノ認可ヲ得サルトキ又ハ之ヲ取消サレタルトキ
 - 六 全部ノ營業ヲ廢シタルトキ
 - 七 特許ヲ受ケタルモノ總テ死亡シタルトキ又ハ會社解散シタルトキ
 - 八 營業滿期ノトキ
- 第五條ノ認可申請以前ニ會社成立セサルトキハ特許ハ其效力ヲ失フ
創立總會ニ於テ又ハ總社員ニ於テ此ノ命令書ノ條項ヲ遵守シテ營業スル
コトヲ議決シ又ハ同意スルニ非サレハ特許ハ其ノ效力ヲ失フ
- 第三十五條 前條ニ掲ケタル場合ノ外特許ヲ受タル者ニ於テ此命令書ノ條
項又ハ此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキハ内務大臣及

遞信大臣ハ特許ノ全部又ハ一部ヲ解クコトアルヘシ特許ヲ受ケタル者カ
不可抗力ニ因ラスシテ滿一箇月間工事ヲ休止シ更ニ起工セサルトキ又ハ
特許ヲ受ケタル者ノ中死亡若ハ脱退者アリタル場合ニ於テ内務大臣及遞
信大臣カ殘存者ノミニテハ事業ヲ營ムニ適セスト認ムルトキハ亦前項ニ
同シ

第三十六條 特許ノ消滅シタル場合ニ於テハ地方長官ハ期限ヲ定メテ道路
ヲ原形ニ復セシムルコトアルヘシ

第三十七條 特許ノ消滅シタル場合ニ於テ國又ハ公共團體カ軌道其ノ他營
業上必要ナル物件ノ全部又ハ一部ヲ買收セントスルトキハ特許ヲ受ケタ
ル者ハ最近ノ財産目錄ニ記載シタル物件ノ價格ヲ以テ之ヲ賣渡スヘシ
買收者ニ於テ前項ノ價格ニ關シ異議アルトキハ其申請ニ依リ内務大臣及
遞信大臣ハ地方長官、買收者及特許ヲ受ケタル者ヲシテ各三名ノ評價委
員ヲ選定セシメ其ノ意見ヲ徵シテ其ノ價格ヲ定ム
本條ノ場合ニ於テハ第三十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十八條 特許ヲ受ケタル者ハ内務大臣及逓信大臣ノ許可ヲ得ルニアラサレハ特許ニ因リテ生スル權利義務ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第三十九條 特許ヲ受ケタル者ニ於テ此命令書及命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ依リ履行スヘキ義務ヲ履行セサルトキハ地方長官ハ自ラ代テ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第四十條 特許ヲ受ケタル者許可ヲ得スシテ營業ヲ休止シ又ハ一部ノ營業ヲ廢止シタルトキハ内務大臣及逓信大臣ハ市町村ヲシテ營業年限内特許ヲ受ケタル者ノ計算ヲ以テ營業ヲ爲サシメ又ハ他人ヲシテ無償ニテ特許ヲ受ケタル者ノ軌道其ノ他營業上必要ナル物件ヲ使用シ營業ヲ爲サシムルコトアルヘシ本條ノ場合ニ於テハ第三十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四十一條 此ノ命令書及此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ依リ特許ヲ受ケタル者ニ於テ履行スヘキ義務ノ爲ニ生スル費用並第十九條第二項及第三十九條ノ費用ハ總テ特許ヲ受ケタル者ノ負擔トス

此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ因リ特許ヲ受ケタル者ニ於テ損害ヲ

受クルコトアルモ其賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十二條乃至第四十四條(削除)

第四十五條 特許ノ消滅シタル場合ニ於テハ特許ヲ受ケタル者ハ特許狀及此ノ命令書ヲ地方長官ノ定メタル期日マテニ返納スヘシ

●軌道條例及明治四十一年勅令第二百

六十六號ニ依ル願書差出方(明治四一、一〇) 遞令四、五)

軌道條例及明治四十一年勅令第二百六十六號ニ依ル願書ハ内務逓信兩大臣宛トシ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

●二省以上交渉ノ事項ニ關スル件

(明治四一、一二) 勅令二六六
(明治四一、一二) 勅令三〇七改正

第一條 軌道條例ニ依リ内務大臣ノ特許ヲ受ケ一般運輸ノ業ヲ營マン

軌道條例及明治四十一年勅令第二百六十六號ニ依ル願書 差出方 二省以上交渉ノ事項ニ關スル件 三四三

トスル者ハ内閣總理大臣ノ許可ヲ受クヘシ
第二條 以下省略

●軌道ノ抵當ニ關スル件(明治四二、四
法律二八)

- 第一條 軌道ノ抵當ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外
鐵道抵當法ヲ準用ス(明治二八、三、法律五三、鐵道抵當法參照)
- 第二條 軌道財團ハ左ニ掲クルモノニシテ軌道財團ノ所有者ニ屬スル
モノヲ以テ之ヲ組成ス
 - 一 軌道線路、其ノ他ノ軌道用地及其ノ上ニ存スル工作物並之ニ屬スル
器具機械
 - 二 工場、倉庫、厩舎、發電所、變壓所、配電所、事務所、舍宅其ノ他
工事又ハ運輸ニ要スル建物及其ノ敷地並之ニ屬スル器具機械
 - 三 用水ニ關スル工作物及其敷地並之ニ屬スル器具機械

四 軌道用通信、信號又ハ送電ニ要スル工作物及其ノ敷地並之ニ屬スル
器具機械

五 前四號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動産ノ上
ニ存スル地上權、登記シタル賃借權及前四號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ
存スル地役權

六 車輛及馬匹並之ニ屬スル器具機械

七 保線其ノ他ノ修繕ニ要スル材料及器具機械

軌道營業者カ軌道ニ要スル電氣ノ餘力ヲ以テ電氣供給ノ業ヲ營ム場合ニ
於テハ其ノ供給ノ爲要スル第二號乃至第五號及第七號ニ掲ケタルモノヲ
軌道財團ニ屬セシムルコトヲ得

第三條 公共團體カ軌道及附屬物件ヲ買上ケタル場合ニ於テハ鐵道抵
當法第二十六條ノ規定ヲ準用ス

特許ニ附シタル條件ニ依リ軌道財團ニ屬スルモノヲ無償ニテ國又ハ公共
團體ニ引渡スヘキトキハ其財團ヲ目的トスル抵當權ハ消滅ス

軌道ノ抵當ニ關スル件

第四條 軌道營業者カ株式會社ニ非サル場合ニ於ケル軌道ノ抵當ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十二年七月勅令第九十一號ヲ以テ同年七月二十二日ヨリ施行）

●軌道抵當取扱規則（明治四二、七
閣令六）

第一條 軌道抵當ノ取扱ニ關シテハ鐵道抵當法施行規則ヲ準用ス（明治三八、五、遞令三七、鐵道抵當法施行規則參照）

第二條 抵當權ノ設定若ハ變更又ハ抵當證書若ハ信託證書ニ記載セル事項ノ變更ニ關スル書類ハ內閣總理大臣及內務大臣宛トシ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ但シ動力ニ電氣ヲ使用スル場合ニ於テハ內閣總理大臣、內務大臣及遞信大臣宛トス

第三條 左ノ書類ハ鐵道抵當法施行規則第二條第一項第六號及第七號

ノ書類ニ代ハルモノトス

一 物件擔保ノ負擔アルトキハ其ノ總額及償還ヲ了ヘサル金額ノ登記抄本又ハ證明書

二 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ總額及償還ヲ了ヘサル金額ノ登記抄本

第四條 軌道財團ニ關スル公告ノ申請書、抵當權ノ登録ニ關スル申請書及軌道財團目錄ニ關スル書類ハ內閣總理大臣宛トシ之ヲ差出スヘシ

第五條 馬匹及電氣供給ノ爲要スルモノノ財團目錄ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第六條 馬匹、保線其ノ他ノ修繕ニ要スル材料ノ變更又ハ消滅ノ届出ハ決算期ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第七條 執行力アル正本付與ノ申請書ハ內閣總理大臣宛トシ之ヲ差出スヘシ

現示ス

第七條 電氣ノ取引ニ使用スル電氣計器ハ檢定ヲ受クヘシ

電氣計器ノ公差及檢定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル電氣計器ヲ電氣ノ取引ニ使用シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 檢定ヲ受ケサルモノ

二 檢定ニ合格セサルモノ

三 檢定ノ效力ヲ失ヒタルモノ

第九條 電氣ノ取引ニ於テ其ノ計量ヲ詐ルノ目的ヲ以テ不正ニ電氣計器ヲ使用シタル者ハ罰前條ニ同シ

第十條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第十一條 電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱・不變電流以外ノ場合ニ於ケル電流電壓及電力ノ計算方法並第一條ニ掲ケタル以外ノ電氣單位ハ命令ノ

定ムル所ニ依ル

附 則

本法ハ第七條及第八條ヲ除クノ外明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七條及第八條ノ施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條及第八條施行前ヨリ引續キ電氣ノ取引ニ使用スル電氣計器ニ付テハ別ニ勅令ヲ定ムル期間第八條ノ規定ヲ適用セス

第七條及第八條施行前ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ主務官廳ノ試験ニ合格シタル電氣計器ハ本法ノ檢定ニ合格シタルモノト看做ス

●電氣測定法第七條及第八條施行期日

(明治四四、二二、二八)
勅令二九五

電氣測定法第七條及第八條ノ規定ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

電氣測定法第七條及第八條施行期日

●電氣測定法第六條ニ依ル電氣單位ノ

標準器仕様細目(明治四三、一二、二七) 通告一五三

第一 電氣抵抗單位ノ標準器仕様細目

電氣抵抗ノ標準器ニ使用スル玻璃管ハ可成寸法不變ナル玻璃ヲ以テ製作シ良ク燒鈍シ且眞直ノモノニシテ管ノ孔ハ可成一様ナル圓形ノモノトス孔ノ切斷面積ハ約一平方「ミリメートル」ニシテ水銀ノ抵抗ハ約一「オーム」トス
各管ハ精密ニ度盛ヲナシ管ノ各部ニ於ケル孔ノ切斷面積ノ不等ニ對スル更正ハ一萬分ノ五ヲ超過セサルモノトス玻璃管ニ填充スル水銀ハ管ノ兩端ニ接シテ設ケタル平面ニヨリ區劃セラレタルモノト假定ス
管ノ軸ノ長サ、管ニ填充スル水銀ノ質量及其ノ電氣抵抗ハ可成攝氏零度

ニ近キ溫度ニ於テ測定シ之ヲ攝氏零度ノ場合ニ換算ス
管ノ各端ニハ電氣測定ノ爲電流用及電壓用ノ接續點ヲ有スル端器ヲ取付ケ其ノ端器ハ球狀(直徑約四「センチメートル」)ニシテ管ト接續スル爲圓筒片ヲ備ヘ管ノ各端ノ外縁ハ球狀端器ノ内面ト一致セシム水銀ニ接スル導線ハ玻璃内ニ融著セル細キ白金線ニシテ電流用導線ハ管ノ端ト直徑上正反對ノ位置ニ於テ端器ニ入り又電壓用導線ハ其ノ中央ニ裝置ス總テノ導線ニハ細キモノヲ用ヒ之ニ依リ水銀ニ熱ヲ導キ電氣抵抗ノ誤差ヲ生スル事ナカラシム電氣抵抗測定ノ場合ニ於ケル管ノ水銀填充ハ質量測定ノ場合ト同一状態ニ於テナス
端器使用ノ爲水銀柱ノ電氣抵抗ニ附加スヘキ抵抗ハ左ノ公式ニヨリ計算ス

$$A = \frac{0.80}{1063 \pi} \left(\frac{1}{R_1} + \frac{1}{R_2} \right) \text{「オーム」}$$

式中 R_1 及 R_2 ハ管孔端ノ截面ノ半徑ヲ「ミリメートル」ニテ表シタルモノト

ス電氣抵抗單位ノ値ヲ定ムルニハ少クモ五本ノ管ニヨリ計算セル抵抗ノ平均値ヲ用フ

各水銀管ト抵抗トヲ比較スルニハ其ノ管ノ水銀填充ヲ測定毎ニ更新シテ三度以上ノ測定ヲナス

第二 電流單位ノ標準器仕様細目

電氣分離ニ使用スル溶液ハ重量ノ割合ニ於テ蒸溜水百ニ對シ硝酸銀十五乃至二十ヲ溶解セルモノニシテ其ノ使用ハ一回ニ限り且銀ノ分離量ヲ百分ノ三十以上ニ達スル事ナカラシム「アノード」ハ銀又「カソード」ハ白金ニシテ使用電流ノ密度ハ每平方「センチメートル」ニ付「アノード」ニ在リテハ五分ノ一「アムペア」以下「カソード」ニ在リテハ五分ノ一「アムペア」以下「カソード」ニ在リテハ五十分ノ一「アムペア」以下トス又溶液ハ百立方「センチメートル」以上トス

機械的作用ニヨリ「アノード」ヨリ分離セルモノノ「カソード」ニ達スルコトナキ様適當ノ注意ヲナス
秤量前「カソード」ハ之ニ附着セル溶液ヲ除キ且之ヲ乾燥ス

●電氣測定法第十一條ニ依ル電氣單位ノ件

(明治四三、二二、二七) 遞令 一一、一七)

電氣測定法第十一條ニ依ル電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱、不變電流以外ノ場合ニ於ケル電流電壓及電力ノ計算方法並同法第一條ニ掲ケタル以外ノ電氣單位左ノ通定ム

第一 條 電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱左ノ如シ

- | | |
|-------------|--------------|
| 「メガオーム」 | 「オーム」ノ百萬倍 |
| 「マイクロオーム」 | 「オーム」ノ百萬分ノ一 |
| 「キロアムペア」 | 「アムペア」ノ千倍 |
| 「ミリアムペア」 | 「アムペア」ノ千分ノ一 |
| 「マイクログラムペア」 | 「アムペア」ノ百萬分ノ一 |
| 「キロヴォルト」 | 「ヴォルト」ノ千倍 |
| 「ミリヴォルト」 | 「ヴォルト」ノ千分ノ一 |

電氣測定法第十一條ニ依ル電氣單位ノ件

- 「マイクログヴォルト」 「ヴォルト」ノ百萬分ノ一
- 「キロワット」 「ワット」ノ千倍
- 「マイクログクロム」 「クロム」ノ百萬分ノ一
- 「マイクロナラツド」 「アラツド」ノ百萬分ノ一
- 「ミリヘンリー」 「ヘンリー」ノ千分ノ一
- 「マイクロヘンリー」 「ヘンリー」ノ百萬分ノ一
- 「ワット」時 「ジュール」ノ三千六百倍
- 「キロワット」時 「ワット」時ノ千倍

第二條 不變電流以外ノ場合ニ於ケル電流電壓及電力ノ計算方法左ノ如シ

- 一 不變電流以外ノ場合ニ於ケル實効電流ノ不變電流ニ及實効電壓ノ不變電壓ニ對スル等價ハ其ノ瞬間値ノ自乗ノ平均ノ平方根ヲ以テ定ム
- 二 不變電流「アムペア」ニ相當スル實効電流ヲ一實効「アムペア」ト稱シ不變電壓「ヴォルト」ニ相當スル實効電壓ヲ一實効「ヴォルト」ト

稱ス

三 電力ハ其ノ瞬時値ノ平均ヲ以テ定ム

第三條 電氣測定法第一條ニ掲ケタル以外ノ電氣單位左ノ如シ

- 一 電量ハ「クローム」ヲ以テ單位トス「クローム」ハ「アムペア」ノ電流ニ依リ一秒間ニ輸送サルル電量ヲ謂フ
- 二 電氣容量ハ「アラツド」ヲ以テ單位トス「アラツド」ハ「クローム」ノ電量ニ依リ「ヴォルト」ノ電位ニ充電サルル蓄電器ノ電氣容量ヲ謂フ
- 三 電氣仕事ハ「ジュール」ヲ以テ單位トス「ジュール」ハ「アムペア」ノ電流「オーム」ノ電流抵抗ヲ有スル導體ヲ通過スルトキ一秒間ニ爲ス仕事ヲ謂フ
- 四 電氣誘導ハ「ヘンリー」ヲ以テ單位トス「ヘンリー」ハ每秒「アムペア」ノ割合ヲ以テ變化スル電流ニヨリ「ヴォルト」ノ電壓ヲ發生スル電路ノ電氣誘導ヲ謂フ

附 則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●電氣計器檢定規則(明治四四、二二、二八) 遞令 五〇

第一條 電氣計器型式ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ申請書(第一號書式)

ニ同一ノ型式及容量ノ計器(附屬器具共)五個竝其ノ説明書及圖面ヲ添ヘ
遞信省電氣試驗所ニ提出スヘシ

第二條 前條ノ説明書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 計器ノ構造及働作

(甲) 電動機又ハ誘導型電氣計器ニ在リテハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

(イ) 電壓及電流捲線(配置、材料、捲數、大サ及抵抗「直流ノ場
合ニ在リテハ電動子、刷子及附屬物ノ構造ヲモ」)

(ロ) 磁路(配置及材料)

(ハ) 廻轉圓板(配置、材料及構造)

(ニ) 車軸及軸承(材料及構造)

(ホ) 制動磁石(配置方法、材料及受附材)

(ヘ) 相ノ調整裝置、重負荷及輕負荷ノ調整裝置竝「クリーブング」
防禦裝置(配置、材料及調整方法)

(ト) 「キロワット」時數又ハ「アムペア」時數指示裝置(配置、構造
及齒車裝置ノ係數)

(チ) 外函乃端子函(形狀及材料)

(リ) 可動部分ノ緊束裝置(配置及構造)

(ヌ) 前記各部ノ動作ノ大要

(乙) 前記以外ノ計器ニ在リテハ(イ)乃至(ヌ)ニ準シ記載スヘシ

二 同一型式計器ノ測定範圍(同一型式計器ニ規定スル電壓、電流、周
波數及電氣方式竝負荷ノ性質、變壓器、變流器其ノ他附屬器具ノ有
無等)

三 計器取扱上ノ注意

四 前各號以外ニ於テ特徴ト認ムヘキ事項

前條ノ圖面ハ左ノ二種トシ用紙ニハ原圖紙(長サ約七寸五分幅約五寸)ヲ用ウヘシ

一 計器電線接續圖

二 計器構造圖(縮尺四分ノ一乃至二分ノ一)

第三條 承認ヲ經タル型式ノ一部分ヲ變更スル場合ト雖遞信大臣ニ於テ其ノ變更カ型式ノ主要部分ニ非スト認ムルモノニ限り其ノ繼續承認ヲ受クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ申請書(第二號書式)ニ計器(附屬器具共)一箇並其ノ變更事項ヲ記載セル書類及圖面ヲ添へ遞信省電氣局電氣試驗所ニ提出スヘシ

遞信大臣ニ於テ型式ノ試驗ヲ必要ト認メ其ノ旨申請者ニ指示シタルトキハ申請者ハ前項ノ申請書ニ同一ノ型式及容量ノ計器(附屬器具共)二箇ヲ

添附スヘシ

第四條 電氣計器ノ檢定ヲ受ケムトスル者ハ申請書(第三號書式)ニ計器(附屬器具共)ヲ添へ遞信省電氣局電氣試驗所ニ提出スヘシ

明治四十四年勅令第二百九十六號第二條第二項ニ依リ電氣計器ノ特殊試驗檢定ヲ受ケムトスル者ハ申請書(第四號書式)ニ計器(附屬器具共)並第二條ニ準シ調製セル説明書及圖面ヲ添へ遞信省電氣局電氣試驗所ニ提出スヘシ

第五條 積算電氣計器ノ誤差ノ試驗ハ左ノ方法ニ依ル

一 規定電壓ニ於テ(交流ノ場合ニ在リテハ規定電壓、規定周波數及無誘導負荷ニ於テ)規定電流並其ノ二分ノ一及其ノ十分ノ一ヲ以テ試驗ス

二 規定電壓、規定電流及規定周波數ニ於テ力率二分ノ一ヲ以テ試驗ス但シ特ニ無誘導負荷ニ限り使用スル計器ニ在リテハ本號ノ試驗ヲ省略ス

第六條 第四條ニ依リ提出セル積算電氣計器ノ始動電流ハ規定電壓ニ於テ(交流ノ場合ニ在リテハ規定電壓、規定周波數及無誘導負荷ニ於テ)規定電流三「アムペア」以下ノモノニ在リテハ規定電流ノ百分ノ三以下又規定電流三「アムペア」ヲ超過スルモノニ在リテハ規定電流ノ百分ノ二以下タルヘシ

第七條 電氣計器ニハ其ノ外函其ノ他適當ノ箇所ニ製造者名、番號、型ノ記號、電氣方式、電壓及容量(又ハ電流)並交流ノ場合ニ在リテハ周波數ヲ表示スヘシ

第八條 電氣計器ハ鉛ヲ以テ封印シ得ル構造ヲ有スル外函ヲ具備シ且封印ヲ剝離セスシテ電路ニ接續シ得ル様装置シタルモノタルヘシ運搬ニ際シ可動部分ノ緊束ヲ必要トスル計器ニ在リテハ封印ヲ剝離セスシテ外部ヨリ之ヲ緊束シ得ル様装置シタルモノタルヘシ

第九條 檢定ニ合格セル電氣計器ニ施スヘキ封印及附屬金屬片ノ雛形ハ左ノ如シ

一封 印



表面



裏面

直徑約三分四厘

二附屬金屬片

15372

表面

(輪廓内ノ數字ハ各計器ノ檢定番號ヲ表ハス)

長サ約八分七厘

4533

裏面

(輪廓内ノ數字ハ左方ハ年、右方ハ月ヲ表ハス)

幅約三分五厘

檢定合格證書ハ第五號書式ニ依リ調製ス

電氣計器ノ檢定ノ有効期間内ニ於テ再封印ヲ爲シタルトキハ遞信省ニ於テ其ノ檢定合格證書ノ裏面ニ其ノ旨ヲ記載ス

第十條 檢定合格證書ヲ亡失又ハ毀損シタル者ハ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲ス者ハ手數料トシテ證書一通ニ付金二十五錢ヲ收入印紙ヲ以テ納ムヘシ

第十一條 電氣計器ノ所有者ハ現ニ電氣ノ取引ニ使用スル計器ノ檢定番號、檢定年月日、製造者名、番號及其ノ種類、格定並使用場所ヲ記載セラル帳簿ヲ備フヘシ

第十二條 電氣計器ノ所有者ハ毎年三月卅一日現在電氣ノ取引ニ使用スル計器ノ箇數ヲ第六號書式ニ依リ四月卅日迄ニ遞信大臣ニ届出ツヘシ

第十三條 電氣計器ノ檢定ハ申請ニ依リ計器所在地ニ於テ行フコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ申請者ハ第五條及第六條ノ試験ヲ行フニ必要ナル設備ヲ爲シ且檢定ニ要スル費用ヲ負擔スヘシ

第十四條 第十一條又ハ第十二條ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附則 本令ハ明治四十四年勅令第二百九十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式(用紙美濃紙)

電氣計器型式承認申請書

収入印紙 貼附シタル収入印紙ノ額

金何圓

一 計器ノ種類

積算電力計、積算電量計
最大負荷表示器等ノ區別

二 製造者名

誘導型、電動機型等ノ區別並
製造者ノ型ノ記號

三 番號

直流交流ノ區別、單相式三相式等ノ區別、二線式三線
式ノ區別、電壓、容量(又ハ電流)、周波數、負荷ノ性質

四 型

五 格

六 定

七 箇

八 附屬器具

右電氣計器檢定規則第一條ニ依リ電氣計器型式ノ承認ヲ申請候也

年 月 日

住 所

申 請 者 名 印

遞信大臣宛

第二號書式(用紙美濃紙)

三六八

印紙入

電氣計器型式繼續承認申請書

貼附シタル收入印紙ノ額

金何圓

積算電力計、積算電量計、
最大負荷表示器等ノ區別

- 一 計器種類
- 二 製造者名
- 三 番號
- 四 型式番號
- 五 型番號
- 六 格定
- 七 係數
- 八 筒數
- 九 附屬器具
- 十 變更事項

型式ノ承認セラレタル番號
誘導型電動機型等ノ區別
竝製造者ノ型ノ記號
直流交流ノ區別、單相式二相式三相式等ノ區別、二線式三線
式等ノ區別、電壓、容量(又ハ電流)、周波數、負荷ノ性質

右電氣計器檢定規則第三條ニ依リ電氣計器型式ノ繼續承認ヲ申請候也

年 月 日
遞信大臣宛

住 所

申 請 者 名 印

第三條書式(用紙美濃紙)

印紙入

電氣計器檢定申請書

貼布シタル收入印紙ノ額

金何圓何拾錢

積算電力計、積算電量計、
最大負荷表示器等ノ區別

- 一 計器種類
- 二 製造者名
- 三 番號
- 四 型式番號
- 五 型番號
- 六 格定
- 七 係數
- 八 筒數
- 九 附屬器具

型式ノ承認セラレタル番號
誘導型、電動機型等ノ區別
竝製造者ノ型ノ記號
直流交流ノ區別、單相式、二相式、三相式等ノ區別、二線式三線
式等ノ區別、電壓、容量(又ハ電流)、周波數、負荷ノ性質

右電氣計器檢定規則第四條第一項ニ依リ電氣計器檢定ヲ申請候也

年 月 日
遞信大臣宛

住 所

申 請 者 名 印

電氣計器檢定規則

三六九

第四號書式(用紙美濃紙)

電氣計器特殊試驗檢定申請書

收入印紙

貼付シタル收入印紙ノ額

金何圓何拾錢

一 計器ノ種類

積算電力計、積算電量計、
最大負荷表示器等ノ區別

二 製造者名

三 番 號

誘導型、電動機型等ノ區別
並製造者ノ型ノ記號

四 型 格

直流交流ノ區別、單相式、二相式、三相式等ノ區別、二線式
三線式等ノ區別、電壓、容量(又ハ電流)、周波數、負荷ノ性質

五 係 數

六 係 數

七 箇 數

八 附 屬 器 具

九 型式承認ヲ受クルコト能ハサル事由

年 月 日

住 所

申 請 者 名 印

遞 信 大 臣 宛

第五號書式

檢 第 號

電氣計器檢定合格證書

檢 定 申 請 者	
計 器 ノ 種 類	
計 器 製 造 者	
計 器 番 號	第 號
型 式 番 號	第 號
計 器 ノ 型	型

電氣計器檢定規則

○電氣計器ノ公差、檢定及檢定手数料ニ

關スル件(明治四四、二二、二八) 勅令二九六

- 第一條 電氣計器ノ公差ハ百分ノ四トス
- 第二條 檢定ヲ行ヒタル電氣計器左ノ各號ニ該當スルトキハ之ヲ合格トス
 - 一 公差ヲ超エサルモノ
 - 二 主務大臣ノ承認シタル型式ニ適合スルモノ
 - 三 主務大臣ノ定ムル装置及動作ニ關スル規定ニ適合スルモノ
 特別ノ事由アル場合ニ於テハ前項第二號ニ適合セサル電氣計器ト雖特殊ノ試験ヲ行ヒ之ヲ合格ト爲スコトヲ得
- 第三條 主務大臣電氣計器ノ型式ヲ承認シタルトキハ之ヲ告示ス

第四條 檢定ニ合格シタル電氣計器ニハ封印ヲ爲シ其ノ檢定申請者ニ檢定合格證書ヲ交付ス

第五條 檢定ノ有効期間ハ檢定合格證書ノ日附ヨリ五年トス

第六條 電氣計器左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ檢定ハ其ノ效力ヲ失フ

一 封印ノ破損シタルトキ

二 第二條、第一條又ハ第三號ニ該當セサルニ至リタルトキ

第七條 電氣計器ノ型式承認又ハ檢定ノ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從

ヒ手数料ヲ納付スヘシ

一 型式承認ノ申請ヲ爲ストキ

甲 積算電氣計器 一件ニ付金七十五圓

乙 最大負荷表示器 一件ニ付金二十圓

二 承認シタル型式ノ主要部分ニ非サル部分ヲ變更シテ更ニ型式承認ノ

申請ヲ爲ストキ

電氣計器ノ公差檢定及檢定手数料ニ關スル件